

都市計画実習 最終レポート

2016年7月1日

## 書店消滅

～書店を救え。まちを救え。～

社会工学類 都市計画主専攻

サステイナビリティ班

班長	片山茜	副班長	中島遥希
資料 DB	メルリーニ愛乃	印刷機器	村上雄馬
江端杏奈	小原岳輝	菊地ひかり	小又暉広
長谷川隼			

担当教員：谷口守

TA：越川知紘

目次	p2
第1章 序論	p4
1.1 研究のフロー	p4
1.2 背景・目的	p4
第2章 本論	p6
2.1 書店消滅マップ	p6
2.1.1 データの収集	p6
2.1.2 マップの作成	p7
2.2 友朋堂へのヒアリング調査	p7
2.2.1 閉店に至った経緯	p8
2.2.2 現状把握のまとめ	p9
2.3 アンケート	p9
2.3.1 筑波大生の実態	p9
2.3.2 友朋堂閉店前後の感情、行動の変化	p11
2.3.3 アンケート調査のまとめ	p12
2.4 取次業界の実態調査	p13
2.4.1 地方・小出版流通センターについて	p13
2.4.2 出版業界の現在	p13
2.4.3 ヒアリング調査を通して	p15
2.5 現地調査	p15
2.5.1 代官山蔦屋書店	p15
2.5.2 本屋 B&B（東京・下北沢）	p16
2.5.3 神田神保町	p17
2.6 フライングラインへのヒアリング調査	p17
2.6.1 フライングラインについて	p18
2.6.2 具体的な取り組み（運営サービス）	p18
2.6.3 出版・書店業界の現状・今後	p18
2.6.4 新たな形態の書店	p18
2.6.5 ヒアリング調査のまとめ	p20
2.7 実態調査のまとめ	p20
第3章 提案	p20
3.1 筑波大生ができるまちの書店を救う方法	p20
3.2 つくば市ができるまちの書店を救う提案	p21
3.3 今後の課題	p22

<b>第4章 参考文献、謝辞</b> . . . . .	p23
4.1 参考文献 . . . . .	p23
4.2 謝辞 . . . . .	p23
<b>第5章 補足資料</b> . . . . .	p24
5.1 書店を取り巻く環境の調査 . . . . .	p24
5.2 アンケート結果 . . . . .	p26
5.3 アンケート用紙 . . . . .	p38
5.4 新規書店の立地特性 . . . . .	p44
5.5 消滅書店の立地特性 . . . . .	p46

## 図表リスト

表 2.1	書店数の推移
表 2.2	友朋堂ヒアリング調査概要
表 2.3	アンケート概要
表 2.4	地方・小出版流通センターヒアリング調査概要
表 2.5	現地調査概要
表 2.6	フライングラインヒアリング調査概要
表 3.1	筑波大生の書籍年間購入額
表 3.2	つくばの年間書籍購入額と救うことができる書店数
図 1.1	研究のフロー
図 1.2	友朋堂書店桜店にて撮影した写真
図 2.1	書店消滅マップ
図 2.2	友朋堂書店吾妻店にて撮影した写真
図 2.3	書店での書籍購入額
図 2.4	ネットでの書籍購入額
図 2.5	友朋堂利用頻度と閉店の寂しさの関係
図 2.6	友朋堂利用頻度と閉店後の本を買う頻度の関係
図 2.7	出版物の販売額推移
図 2.8	出版業界の現状
図 2.9	地方・小出版流通センターにて撮影した写真
図 2.10	代官山蔦屋書店にて撮影した写真
図 2.11	本屋 B&B にて撮影した写真

図 2.12 神田神保町にて撮影した写真

図 2.13 フライングラインにて撮影した写真

図 2.14 BOOK ROAD の写真

図 2.15 一箱古本市の写真

## 第 1 章 序論

### 1.1 研究のフロー

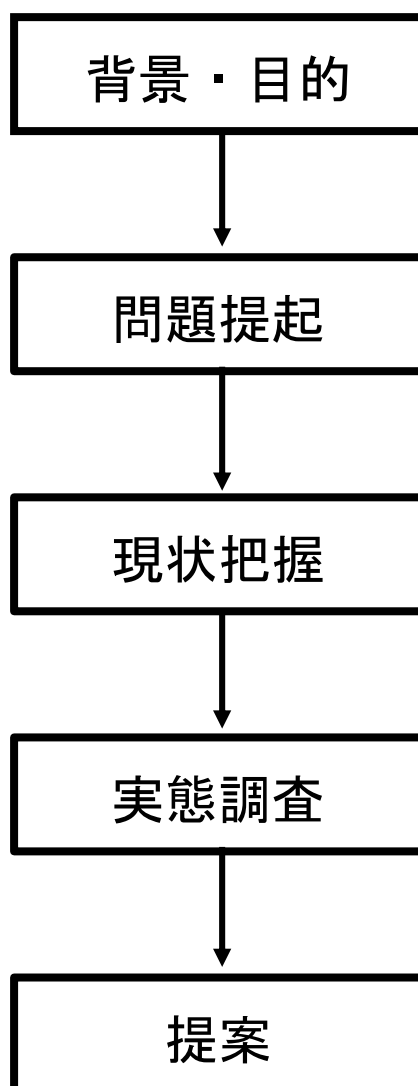


図 1.1 研究のフロー

### 1.2 背景・目的

2016 年 2 月 12 日、長年つくば市民に愛されてきた友朋堂書店 吾妻店・桜店・梅園店の 3 店舗が閉店した。インターネット上では『友朋堂ロス』という言葉で書店の閉店に対する

思いを表現する人もいる。

書店の閉店につくば市だけではなく、日本全国で起きている。一般ユーザーの口コミによる国内の書店の閉店や開店情報をまとめている『閉店開店』というサイトを見るだけでも、2016年2月のみで33店舗の書店が閉店していた。



図 1.1 友朋堂書店桜店にて撮影した写真(2016年5月12日(木)班員撮影)

書店数の減少により、書店に行きたくても行くことのできない『書店難民』が発生するのではないだろうか。つくば市に隣接するつくばみらい市は、現在関東唯一の書店の存在しない市であり、市内で書籍を買うことのできない状況である。今後書店の閉店が進むことにより、このような自治体が増えていくことが考えられる。また、本に触れる機会の減少が本に対する興味、読書量の低下をもたらすのではないかと考えられる。さらに、書店数が減少していくことで、まちのにぎわいの喪失が考えられる。既存研究<sup>3)</sup>では、書店の訪問は「まちなかへの来訪者の滞留時間を確保するうえで重要な行動」とされている。書店消滅がまちなかへの滞在時間に影響を与え、まちのにぎわいが失われているのである。

以上の背景を踏まえて、私たちはまちの書店を救うことを本実習の目的とした。まちの書店消滅を救うことで、書店難民の発生を抑えること、本に触れる機会が増えること、かつてのまちのにぎわいを取り戻すことができるのではないかと考えた。

## 第2章 本論

### 2.1 書店消滅マップ

前章で全国的に書店消滅が進んでいることがわかった。そこでつくば市周辺での書店消滅の実態を把握するため、電子電話帳と GIS を用いて書店消滅マップを作成した。

#### 2.1.1 データの収集

電子電話帳 2003 年業種版 special と同 2015 年版より、つくば市、およびつくば市に隣接する 9 市町村の書店のデータを抽出した。電子電話帳の文具・書店というカテゴリからデータを取り出した。その後、店名検索を行い、文具店を除いたものを書店とした。

書店は 2003 年には 138 店舗、2015 年には 93 店舗が存在しており、45 店舗減少していることがわかった。さらに、2003 年時と 2015 年時に存在していた書店のリストを比較し、2003 年時には存在していたが 2015 年時には存在していない書店を消滅書店、2003 年時には存在していなかったが 2015 年時に存在している書店を新規書店としてその数を調べた。結果は表 2.1 に示す通りである。

表 2.1 書店数の推移

市町村	書店数			
	2003 年	消滅書店数	新規書店数	2015 年
つくば市	29	15	9	23
つくばみらい市	3	3	0	0
常総市	10	6	3	7
下妻市	9	4	2	7
筑西市	13	8	0	5
桜川市	5	1	2	6
石岡市	16	11	3	8
土浦市	30	20	10	20
牛久市	11	3	1	9
龍ヶ崎市	12	6	2	8
合計	138	77	32	93

2003 年から 2015 年の間で 45 店舗減少しているが、実際は 77 店舗が消滅し、32 店舗が新たに开店していることが分かった。さらに市町村別に比較すると、石岡市、土浦市で特に書店の減少が著しいことが分かる。

次に消滅書店、新規書店の立地特性を、書店の住所をもとに調査した。その結果、新規書店の 1/3 にあたる 12 店舗が郊外のショッピングセンター内の書店であることが分かった。なお詳細な結果は第 5.2, 5.3 章の補足資料を参照していただきたい。

### 2.1.2 マップの作成

2.1.1 で取り出したデータを GIS に表示し、同時に国土数値情報、基盤地図情報より入手した行政区画線と鉄道路線、鉄道駅を表示し、書店消滅マップを作成した（図 2.1）。書店消滅マップより土浦、石岡、下妻といった駅前で多くの書店が消滅しており、新規出店は郊外部で多いことが分かる。

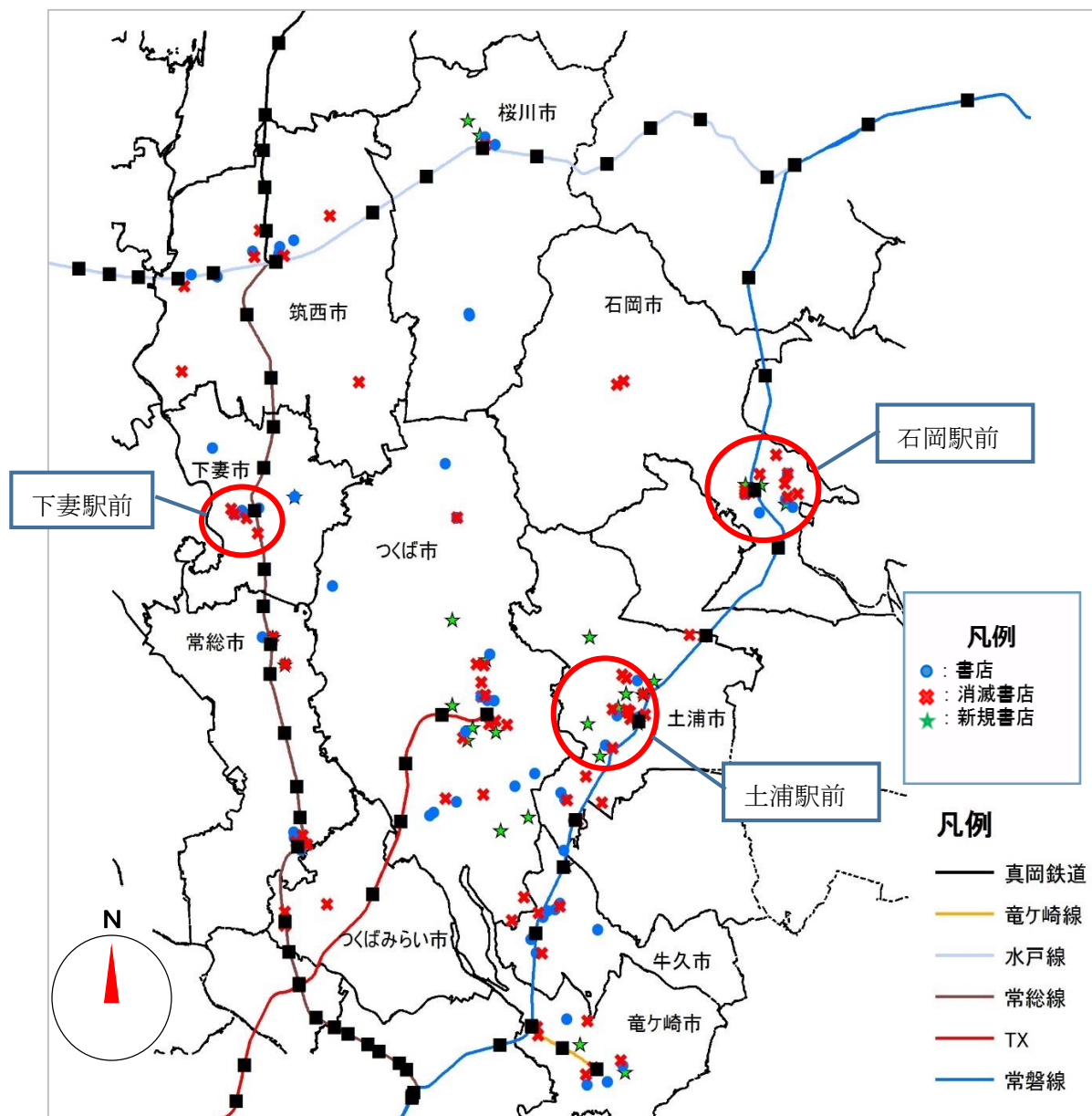


図 2.1 書店消滅マップ

## 2.2 友朋堂へのヒアリング調査

書店閉店の原因を知るために友朋堂書店にヒアリング調査を実施した。ヒアリング調査の概要は表 2.2 に示す通りである。ヒアリング成果は以下の 3 つに分けられる。

表 2.2 ヒアリング調査概要

調査日時	2016 年 5 月 9 日 (月)
調査場所	友朋堂 吾妻本店
ヒアリング先	友朋堂 柳橋社長
参加者	片山, 江端, 長谷川, 指導教員, TA
目的	友朋堂閉店の経緯、 現場で起きていたことの調査
質問項目	・ 友朋堂立ち上げ時について ・ 閉店に至った経緯 ・ 全国の書店の危機について など

### 2.2.1 閉店に至った経緯

#### ① まちの変化

友朋堂は研究学園都市が誕生し、研究施設の移動が終わった時期に開業した。当時、友朋堂自体がまちづくりの一部としてまちの発展に参加している感覚があったという。開業当初から現在までつくばの状況は大きく変化した。住民層は変わり、2005 年のつくばエクスプレスの開通により研究学園駅周辺が商業圏として繁栄したことや、東京へのアクセスが良くなったことで友朋堂を利用していた顧客が分散してしまった。

#### ② 本に対する意識の変化

友朋堂の開店当時は雑誌がよく売れていたが現在は娯楽が多様化している。また、新本に対する憧れがなくなり、書籍を古本屋で購入する人や図書館の利用で済ます人が増えた。結果として、書店での売り上げが伸び悩んでいる。

#### ③ 取次業者の倒産

友朋堂閉店の直接的な原因として取次業者の倒産が上げられた。書店の規模にもよるが、友朋堂書店と同規模の書店では別の取次業者と新しく取引するためには、営業を再開し書籍を一新するのに約 1 億円が必要である。友朋堂では 1 億円を用意することが困難であったため、新しい取次業者に乗り換えることが出来なかった。



図 2.2 友朋堂書店吾妻店にて撮影した写真(2016 年 5 月 9 日(月)班員撮影)



### 2.2.2 現状把握のまとめ

友朋堂閉店の原因はまちの変化や本に対する意識の変化が友朋堂の経営状態の悪化に影響を与えていたことが分かった。また、取次業者の倒産が閉店の直接的な原因であり、取次業者倒産の際に金銭的な余裕がなく、再び書店を立て直すことが不可能であった。

このヒアリング調査より、

① 筑波大生も実際に本を買わなくなっているのか

② なぜ取次業者はつぶれてしまったのか

という疑問点が生まれた。

また、ヒアリング調査を元にした班内での話し合いにおいて、

③ 新しい形態の書店の実態とはどのようなものなのか

④ 出版広告が時代に合わないのではないのか

という疑問も生まれた。友朋堂書店でのヒアリング調査を通して感じた疑問点について深めるために実態調査を行うことにし、調査内容を 2.3～2.6 章にまとめた。

## 2.3 アンケート

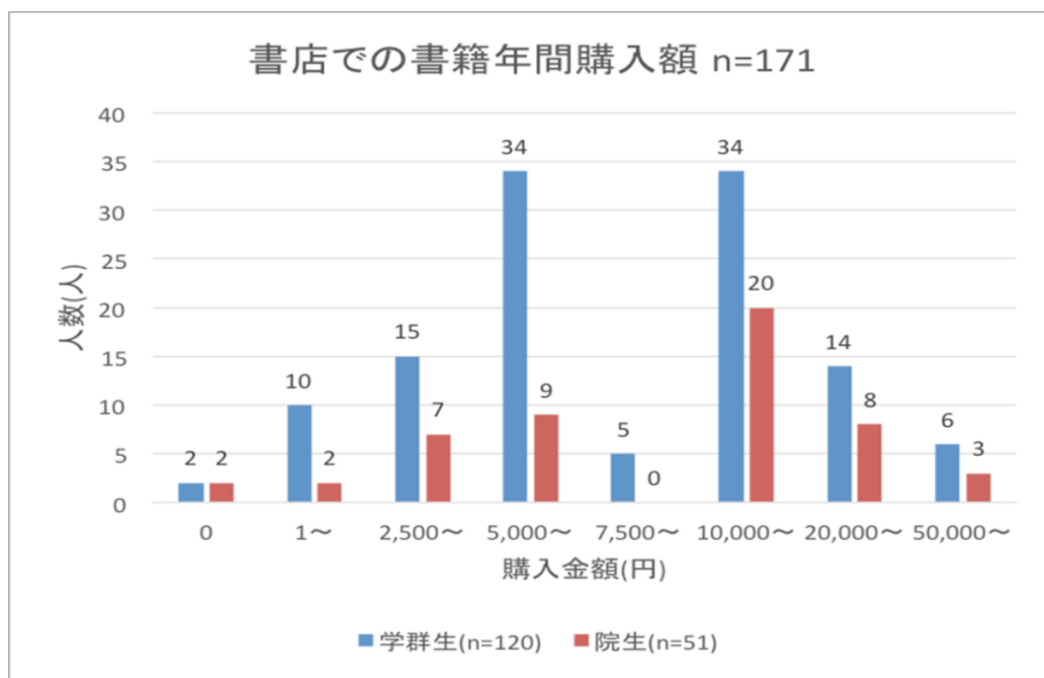
筑波大生も実際に本を買わなくなっているのか、という友朋堂書店へのヒアリング調査の疑問点を解決するために筑波大生に対してアンケートを行った。概要は表 2.3 の通りである。

表 2.3 アンケート概要

調査名	書店の利用に関するアンケート
調査目的	筑波大生の書店、書物に関する実態把握 友朋堂閉店前後での変化 筑波研究学園に合う書店
調査対象	筑波大学生 186 名(学群生 132 名、院生 54 名)
調査方法	アンケート用紙を授業で配布、班員の知人に配布
実施期間	2016 年 5 月 30 日(月)～6 月 5 日(日)
質問項目	個人属性 書店の利用頻度 ネット通販、電子書籍、図書館の利用 書店のニーズ 友朋堂の利用頻度 友朋堂閉店前後の行動、感情の変化

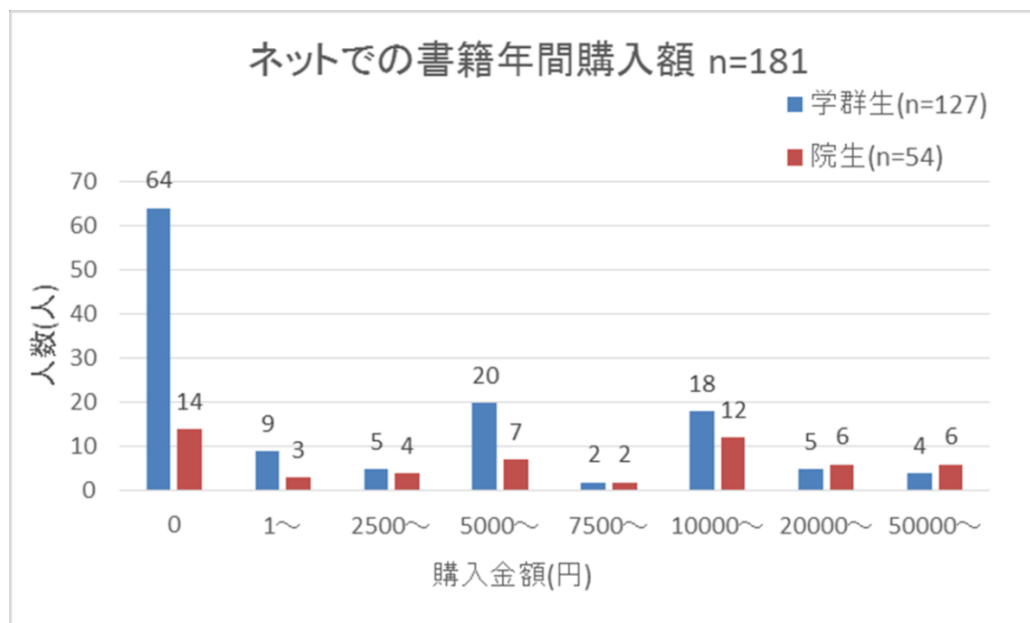
### 2.3.1 筑波大生の実態

アンケート問 2-5「書店での本(ネット通販を含まない)の購入に年間でいくら使っていますか?」という設問の結果を図 2.3 で示した。図 2.3 では学群生と院生で区別しており、学群生の平均が 11,533 円、院生の平均が 14,745 円という結果が得られた。



**図 2.3 書店での書籍年間購入額**

次に、アンケート問 3-1「ネット通販での本の購入に年間でいくら使っていますか？」という設問の結果を図 2.4 で示した。こちらも図 2.3 と同様に学群生と院生で区別しており、学群生の平均が 5,323 円、院生の平均が 20,741 円という結果が得られた。図 2.3 と図 2.4 から、学群生は書店、院生はネットでの購入金額が多いことが分かる。特に学群生のおよそ半分がネット通販を全く利用していないことが分かる。



**図 2.4 ネットでの書籍年間購入額**

ここで1993年の都市計画実習において、書店に関する調査を行っていた班の最終レポートを入手し、筑波大生の1ヶ月の書籍購入額を得ることができた。1993年の筑波大生の1ヶ月の書籍購入額は約5,200円(雑誌・コミック約1,500円 + 単行本・専門書約3,700円)であった。この結果から書籍年間購入額は約62,400円と分かる。2016年の筑波大生の書店とネット通販を合わせた書籍年間購入額は、学群生が16,856円(書店11,533円 + ネット5,323円)、院生が35,486円(書店14,745円 + ネット20,741円)であった。1993年の調査が書店出入り口での街頭インタビューであったため調査方法は厳密には異なるものの(私たちの班でも書店に全く行かない人は除いたが)、書籍年間購入額は1993年よりも大きく減少していることがわかる。

### 2.3.2 友朋堂閉店前後の感情、行動の変化

続いて、アンケート問6-4「友朋堂(3店舗合わせて)に訪れていた頻度はどれくらいですか?」という設問の結果と問6-8「友朋堂閉店の寂しく感じましたか?」という設問の結果とのクロス集計結果を図2.5で示した。図3から、友朋堂の利用頻度が高かった人ほど閉店に寂しさを感じているという結果が得られた。しかし、友朋堂の利用頻度が低い人や行ったことがない人でも割合は低いものの閉店に寂しさを感じていることがわかる。

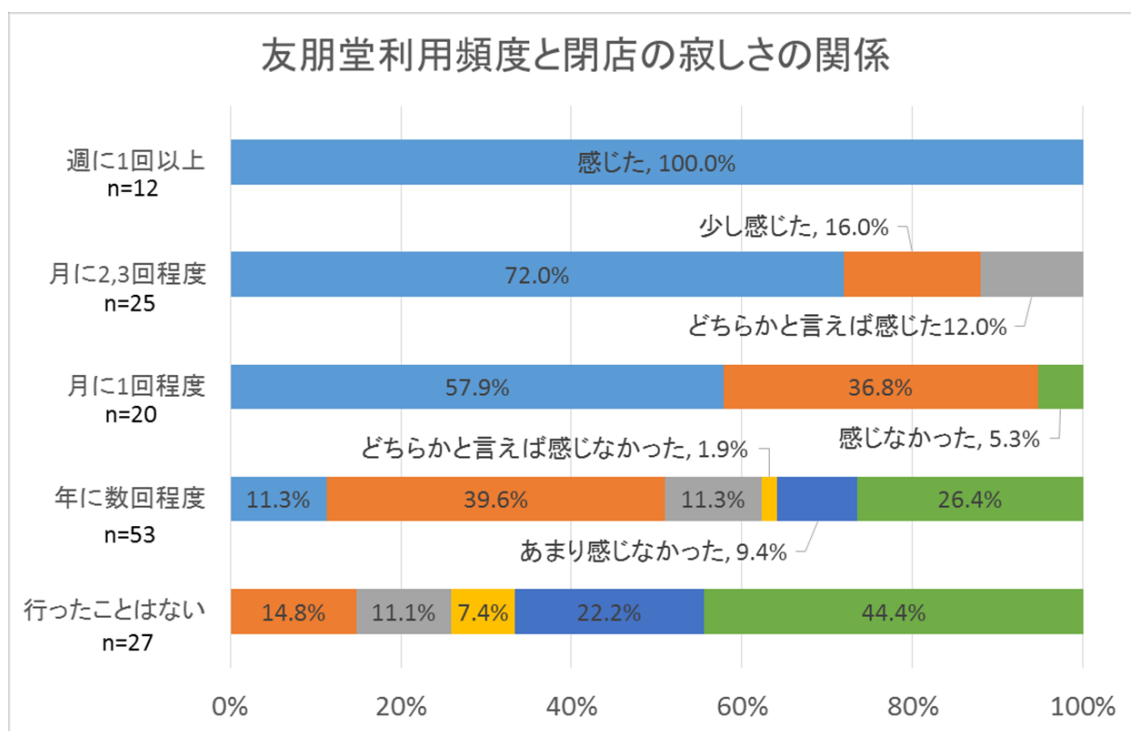


図 2.5 友朋堂利用頻度と閉店の寂しさの関係

また、アンケート問 6-4「友朋堂(3 店舗合わせて)に訪れていた頻度はどれくらいですか?」という設問の結果と問 6-7「友朋堂閉店後、書店を訪れる頻度は変化しましたか?」という設問の結果とのクロス集計結果を図 2.6 で示した。図 2.6 から、友朋堂の利用頻度が高かった人ほど閉店後に本を買う頻度が減少しているという結果が得られた。年に数回程度しか友朋堂を利用していなかった人も多くが本を買う頻度は変化していないものの、減少した人が一定数存在することがわかる。図 2.5 と図 2.6 から、友朋堂閉店に対して寂しいと感じた人が多く存在しており、さらに閉店に対する「寂しい」という感情の変化だけでなく、実際に本を買う頻度も減少していることがわかる。

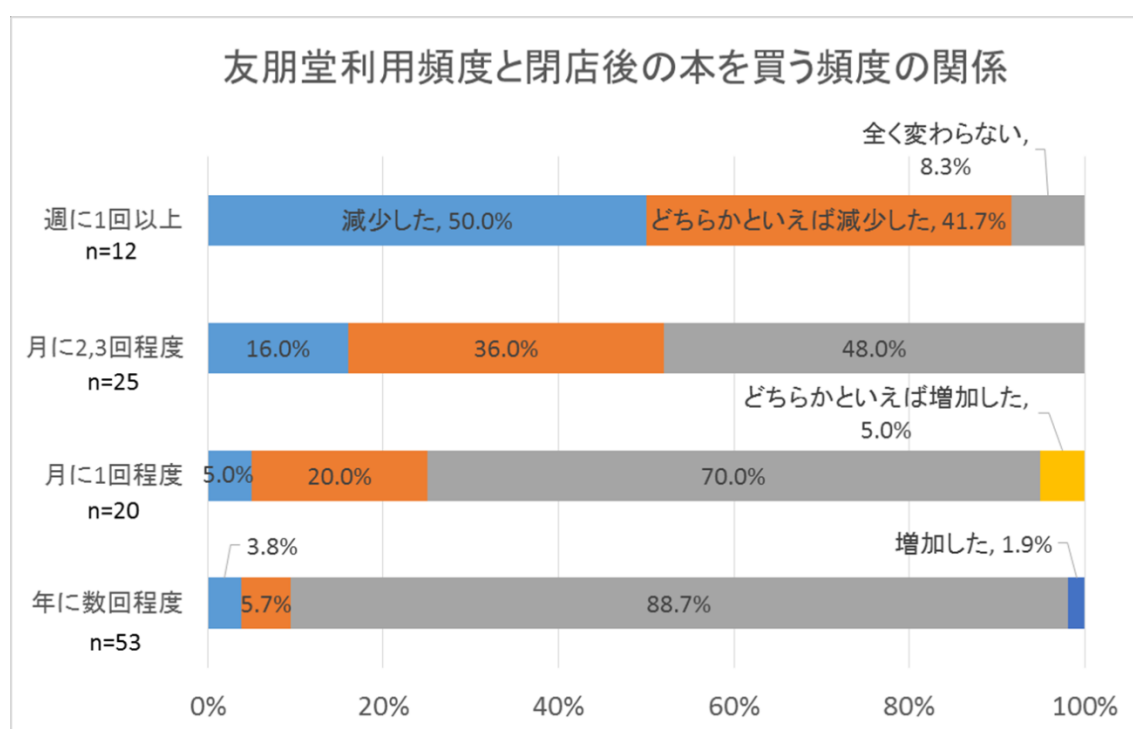


図 2.6 友朋堂利用頻度と閉店後の本を買う頻度の変化

### 2.3.3 アンケート調査のまとめ

以上のアンケート結果から、友朋堂書店でのヒアリング調査における本に対する意識の変化が筑波大生にも起きており、書籍の購入金額が減少していることがわかった。しかし、友朋堂の閉店に対して寂しさを感じており、また本を買う頻度が減少していることから、書店は筑波研究学園に必要な存在であることも判明した。

## 2.4 取次業界の実態調査

取次業者を取り巻く環境を調査するため、取次業界へのヒアリング調査を行った。概要は表 2.4 の通りである。ヒアリング成果は以下のとおりである。

表 2.4 ヒアリング調査概要

調査日時	2016 年 6 月 7 日(火)
調査場所	地方・小出版流通センター
ヒアリング先	代表取締役 川上様
参加者	江端,小又,メルリーニ
目的	取次業者の廃業の原因、出版業界を取り巻く環境の調査
質問項目	<ul style="list-style-type: none"><li>・ 設立について</li><li>・ 今後の書店はどうなっていくか</li><li>・ 流通ルートの問題点について</li><li>・ 大手取次業者の戦略 など</li></ul>

### 2.4.1 地方・小出版流通センターについて

日本の出版流通は、出版社-取次業者-書店-読者というルートで流れている。地方・小出版流通センターは 40 年前、大手の取次業者に相手にされず、流通から疎外されていた地方出版や小規模出版の出版物を全国に流通させることを目的に有志の出資により誕生した。地方・小出版の出版物をまとめて取引し、取次業者や書店に渡す役割を果たしている。

### 2.4.2 出版業界の現在

#### ① 出版不況

雑誌は流通のサイクルが早く、貴重な収入源であったがこれまで雑誌を購入していた団塊の世代が定年したことや、バブル崩壊により雑誌が売れない状況になった。

この状況は出版業界に大きな打撃を与えている。友朋堂の取次業者であった太洋社も雑誌類を得意としており、この影響は大きかったと思われる。また、書店においては雑誌販売での利益分ではほかの多様な書物をそろえる余裕もあった。

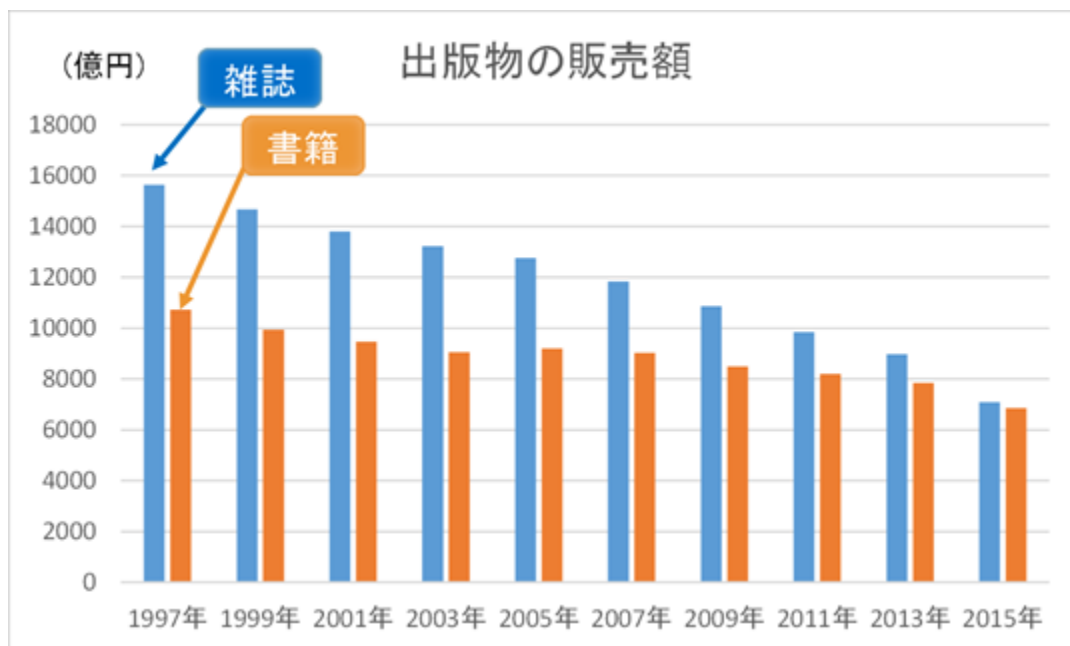


図 2.7 出版物の販売額（小田光雄(2016) 『出版不況クロニクルⅣ』 論創社より作成）

## ② 大手取次業者の戦略

売れる書店の争奪戦状態である。書店を買収し、子会社化することで安定した大量の流通が生まれる。現在の取次業界は大手二社による寡占状態である。このような戦略に対し中小の取次業者が対抗するのは厳しいといえる。

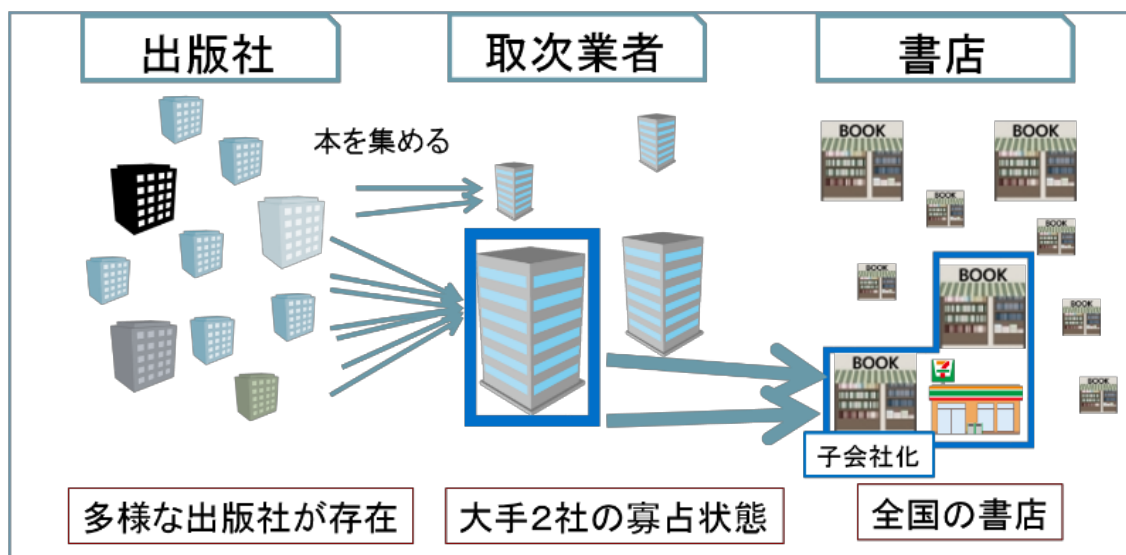


図 2.8 出版業界の現状(ヒアリング調査の内容をもとに班員作成)

### 2.4.3 ヒアリング調査を通して

出版業界の課題は

- 雑誌の売り上げを上げること
- 流通の仕組みを変えること

であるが実際には解決は難しいということだった。



図 2.9 地方・小出版流通センターにて撮影した写真(2016年6月7日(火)班員撮影)

## 2.5 現地調査

独自の戦略を持つことで集客力が強く、まさに馴染んでいる新しい書店の実態を知るために現地調査を行った。概要は表 2.5 に示す通りである。

表 2.5 現地調査概要

調査日時	2016年5月2日(月)
調査場所	代官山蔦屋書店、本屋 B&B、神田神保町
参加者	サステイナビリティ班全員
目的	独自の戦略を持ち、まさに馴染んだ書店を知ること 新たな形態の書店を知ること

### 2.5.1 代官山蔦屋書店

50代以上の団塊の世代に合わせた特定のジャンル(車・旅行・料理・建築デザインなど)はかなり重点的に選書をされていると感じられた。しかし、例えば建築関連の書籍といっても、デザイン関係は多いが構造については少ないなど、本の種類にばらつきがあった。専門書というより、気軽に手に取って楽しめる本を数多く揃えていた。ファッション関係の本は、海外ブランドの作品集が置いてあり、普通の書店では入手しづらいものが置いてあった。書籍の並べ方も工夫しており、本の表紙を見せる平置きが特徴的だった。



また、料理本で使われている食料品や、書籍に関する雑貨を合わせて展示・販売することによって、他の面での収入や書籍に興味を持ちやすいようにするための工夫がなされていた。さらに、カフェや骨董市などの施設と戦略的に複合しており、書店を中心とした憩いの空間を形成していた。その雰囲気が、「おしゃれなまち」代官山と調和していた。



図 2.10 代官山蔦屋書店にて撮影した写真(2016 年 5 月 2 日(火)班員撮影)

### 2.5.2 本屋 B&B (東京・下北沢)

お酒を飲みながら書籍を選べるのが特徴的で、営業時間も 24 時までと長く、ゆったりとした時間を過ごすことが出来る。この書店でも特定のジャンル(建築・政治など)に絞った選書がされており、他の書店では見られないような書籍が販売されていた。

また、毎晩数名のゲストによるトークイベントが開かれている。書籍に関係する人を中心としており、これを目的として書店を訪れる人も一定数いると考えられる。イベントに参加しながらお酒を飲むといった、従来の書店ではなかった新しい形で経営している。



図 2.11 本屋 B&B にて撮影した写真(2016 年 5 月 2 日(火)班員撮影)



### 2.5.3 神田神保町

ここでは、書店が集積することでまちを形成している点が最大の特徴であった。新書のみを扱う書店もあるが、それ以上に古書を扱う書店が多くあり、周辺には大手の出版社や印刷所が存在していた。扱う書籍はジャンルを限定しており、古書店においては、古いものでは明治時代に出版されたものなど、貴重な書物を集めていた。新刊書を扱う書店でもマニアックな書籍が多く、一社の出版社の書籍のみを扱う書店も見られた。

まち全体で書店街のブランドをつくっており、観光マップの作成も行っていた。マップを片手に通りを歩くだけでも十分に楽しめ、観光スポットとも呼べるような雰囲気だった。

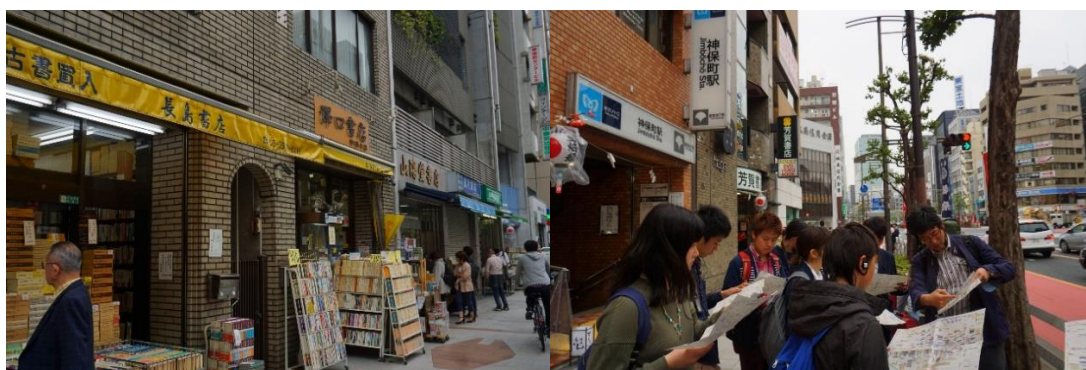


図 2.12 神田神保町にて撮影した写真(2016 年 5 月 2 日(火)班員撮影)

## 2.6 フライングラインへのヒアリング調査

2.2.2 で生まれた疑問点「③新しい形態の書店の実態とはどのようなものなのか④出版広告が時代に合わないのではないか」について調査するため、株式会社フライングラインへのヒアリング調査を行った。概要は表 2.6 に示す通りである。

表 2.6 ヒアリング調査概要

調査日時	2016 年 6 月 14 日(火)
調査場所	株式会社フライングライン
ヒアリング先	代表取締役 鐘ヶ江様 「本が好き！」編集部 和氣様
参加者	片山, 中島, 長谷川
目的	出版広告の今後を知る 多様化する書店の実態の調査
質問項目	・ 出版広告の変化 ・ 新しい書籍のかたち ・ 出版業界の今後について など

### 2.6.1 フライングラインについて

長年、出版広告の中心は新聞広告であったが、現代では新聞の売上の減少やインターネット・電子書籍の登場によって、新聞広告の果たせる役割に限界がある。鐘ヶ江氏は、出版広告業界のあり方は変わっていくのではないかと考え、まだ確立された方法がない出版広告の Web 部門で新たな方法を模索しようとフライングラインを立ち上げた。

### 2.6.2 具体的な取り組み（運営サービス）

フライングラインでは、主に本に関する Web サービスの開発・運営を行っている。フライングラインが運営を行っているサービスは、下記の通りである。

①HONDANA（ホンダナ） <出版社専用 CMS>(<http://www.hondana.jp/>)

出版社のホームページ構築・運営を助けるシステム。

②本が好き！ <献本がもらえる読書コミュニティ>(<http://www.honzuki.jp/>)

書評を書くとポイントが貯まり、献本がもらえる読書コミュニティサービス。

③YONDEMILL（ヨンデミル） <電子書籍販売支援サービス>(<http://yondemill.jp/>)

Web 上で本をワンクリックで読むことを可能にするプラットフォーム。

### 2.6.3 出版・書店業界の現状・今後

業界の現状として、書店・取次に加えて出版社も厳しい状況にあるということ、業界は閉鎖的で実際には様々な取り組みがなされているのに業界内での共有があまりされていないということが分かった。一方で、今までは内容は面白いがコストの関係で世に出なかった書籍(5 ページしかない書籍など)が電子書籍として登場する可能性があること、これまでの形にとらわれない新たな形態の書店が登場しているということも分かった。



図 2.13 フライングラインにて撮影した写真（2016/06/14(火) 班員撮影）

### 2.6.4 新たな形態の書店

2.6.3 で触れた新たな形態の書店の事例の中から 2 つを紹介する。

① BOOK ROAD（武蔵野市）

古本を扱う無人の書店。支払いにはカプセル自販機を用いる。本に価格が貼ってあり、

その金額に応じたカプセルを自販機で購入する。カプセルにビニール袋が入っており、購入した本を入れて持ち帰る。本は地域の人々が寄贈しており、地域に支えられている。



図 2.14 BOOK ROAD のカプセル自販機

(<http://www.nonowa.co.jp/areamagazine/blog/201505/02.html> より)

## ② 一箱古本市（不忍通り）

「不忍ブックストリート」と呼ばれる不忍通りにおいて、様々な店の軒先などを借りて参加者がダンボール一箱分の古本を販売するイベント。本を売る人や買う人、場所を貸す人が交流出来るイベントとなっている。このイベントを参考にして同様のイベントを開催している地域もあり、全国的に広がっている。



図 2.15 一箱古本市の様子

(<http://taku-ken.co.jp/column/journal/2.html>,  
<http://www.nonowa.co.jp/areamagazine/blog/201505/02.html> より)

### 2.6.5 ヒアリング調査のまとめ

疑問点「③新しい形態の書店の実態とはどのようなものなのか」について、2.6.4で紹介したような多様な書店の実態を知ることができた。「④出版広告が時代に合わないのではないか」については、2.6.1で触れた通り、従来の出版広告の中心であった新聞広告の果たせる役割に限界が来ていることから、出版広告が時代に合わなくなっているということがわかった。一方で、フライングラインのように新たな出版広告の形を模索する動きもあることがわかった。

### 2.7 実態調査のまとめ

2.3で行ったアンケートから1993年から現在まで、また友朋堂閉店によっても書籍購入額が減少していたことが分かった。また、2.4から2.6で行ったヒアリング調査と現地調査から、現状の制度を変えることは難しいことが分かった。しかし、現代でも多様な形態の書店が存在していること、さらに新たな出版広告の形の模索が行われていることが分かった。

現状を踏まえ、つくばにも個性的な書店を作ろうと考えたが、1店舗作ったところでまちの書店は救えないと思い、どうすればまちの書店が救えるかを考え第3章にまとめた。

## 第3章 提案

### 3.1 筑波大生ができるまちの書店を救う方法

まちの書店を救うためにはどうすればよいか、つくば市を例に考えた。書店維持に必要な年間売上高を仮定し、その金額を超える売上高を達成することができれば、まちの書店が救えると考えた。文献調査により、友朋堂桜店と同規模の書店の年間売上高が3億円程度であったため、まちの書店を救うために必要な年間売上高を3億円と仮定した。

最初に筑波大生で書店を救うことができるか考えた。筑波大生は約16,800人であるため、3億円のためには1人当たり17,857円の購入が必要である。アンケートから、学類生と院生の書店での年間書籍購入額がそれぞれ11,533円、14,745円と分かった。学類生が約10,000人、院生が約6,800人であることから、割合を考え筑波大生1人当たりの書店での年間書籍購入額が12,833円であることが分かった。これより、3億円のためには1人当たりさらに5,024円書店で購入する必要がある。この5,024円は、雑誌13冊、コミック12冊、専門書2冊に相当する金額である。

書店を救うため、次に私たちは書籍をネット通販での購入からまちの書店での購入に移行することで3億円に達するのではないかと考えた。書店での年間書籍購入額と同様の計算を行い、筑波大生1人当たりのネット通販での年間書籍購入額が11,564円であると分かった。書店での購入額と合計すると24,397円となり17,857円を超え、書店を約1.3店舗救うことができることが分かった。このことから、ネット通販から書店での書籍購入に移行することで、筑波大生でまちの書店を救うことができると言える。

表 3.1 筑波大生の書籍購入額

	学類生	院生	筑波大生
書店年間購入額	11,533 円/人	14,745 円/人	12,833 円/人
ネット通販年間購入額	5,323 円/人	20,741 円/人	11,564 円/人
書籍年間購入額	16,856 円/人	35,486 円/人	24,397 円/人
書店を救うために必要な書籍年間購入額			17,857 円/人

### 3.2 つくば市ができるまちの書店を救う提案

しかしこの仮定において、筑波大生だけでは1.3店舗の書店しか救うことができない。そのため、次に教員で書店を救うことができるか考えた。教員へのヒアリング調査を追加して行い、サンプル数は7であった。教授、准教授、助教別で平均金額を計算し、教授、准教授、助教の人数比から教員全体の平均を計算した。その結果、教員一人当たりの年間書籍購入額が48万円であり、教員全体の書籍購入額が6億4千万円であり、2.1店舗の書店を救うことができる。このことから、筑波大学全体では約3.4店舗救うことができると言える。またヒアリング調査から、以前教員のほとんどが書店の営業での注文や店頭注文であったが、今は主にネット通販を利用していることが分かった。教員の書籍購入方法も時代の変化とともに変化していると言える。

最後に、つくば市民で書店を救うことができるか考えた。文献調査からつくば市の出版物需要が約28億円と分かり、9.3店舗の書店を救うことができると言える。このことから、つくば市全体では約12.7店舗の書店を救うことができると言える。そのための方法として、ネット通販での購入をやめ、書店での購入に限定することでまちの書店が救えるのではないかと考察した。

表 3.2 つくばの年間書籍購入額と救うことができる書店数

	年間書籍購入額 (億円)	救うことができる書店数
筑波大生	4.1	1.3
大学教員	6.4	2.1
筑波大学	10.5	3.4
つくば市民	28	9.3
つくば市全体	38.5	12.7

### 3.3 今後の課題

最終発表を終え、新たに以下の問題点があげられた。

- 書籍をネット通販から書店での購入にするにはどうすればよいか
- まちの書店では売られていない専門書が多いため、書店での購入は難しいのでは
- 現在ある書店数が適切なのか分からないため、ある一定範囲においてどこにどれだけの書店があればいいのか客観的な指標が必要なのではないか
- 図書館と書店との関連が存在していたのではないか
- つくば市の出版物需要を求めた計算では、研究者が多いつくばの特性が反映されていないのではないか
- 書店での売り上げを出版物に限定しないで売上高を考えるべきでは

この中でも特に、「書籍をネット通販から書店での購入にすることが難しい」ということを一番の課題とし、書店消滅を救うために今後の調査に生かして行きたい。

## 第4章 参考文献、謝辞

### 4.1 参考文献

1. 株式会社宅建 <<http://taku-ken.co.jp/>>  
2016年6月17日アクセス
2. 書店マスタ管理センター  
<<https://www.jpoksmaster.jp/>>  
2016年5月11日アクセス
3. 谷口守・橋本成仁・上田拓磨「行動連鎖表を用いたサイバー化によるとした都市滞留行動への影響分析—購買行動の子空間代替・保管関係に着目した試論—」,土木計画学研究・論文集,Vol27no2,p379,2010
4. 東京商工リサーチ<<http://www.tsr-net.co.jp/>>  
2016年5月11日アクセス
5. 東京新聞「増える書店ゼロの街」2012年8月12日
6. トーハン< <http://www.tohan.jp/> >  
2016年5月11日アクセス
7. 日本出版販売株式会社<<http://www.nippan.co.jp/>>2016年5月11日アクセス
8. ののわ <<http://www.nonowa.co.jp/areamagazine/>> 2016年6月17日アクセス
9. 「みんながブックリするような、しかも、本当にほんしい本屋を、のほほんと作っちゃえい！」1993年都市計画実習Ⅰ・地域科学演習Ⅰ 最終レポート
10. 日本ソフト販売株式会社「電子電話帳 2003」、  
及び「電子電話帳 2015」
11. 小田光雄 (2016)『出版不況クロニクルⅣ』論創社

### 4.2 謝辞

実習を進めるにあたり友朋堂吾妻店 柳橋様、地方・小出版流通センター 川上様、フライングライン 鐘ヶ江様、和氣様、インタビューにご協力いただいた先生方、近未来計画学研究室の皆さま、そしてアンケートに答えてくださった皆さまにご協力いただきました。この場を借りて感謝いたします。



## 第5章 補足資料

### 5.1 書店を取り巻く環境の調査

#### 書店業界に特有の制度

書店業界について調査をしていくと、書店業界に存在する2つの特有の制度があることがわかった。

#### 委託販売制度

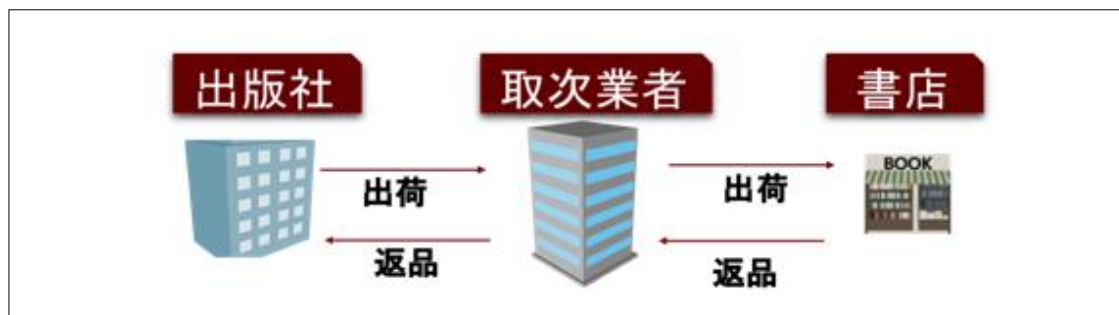


図 5.1 委託販売制度の仕組み

委託販売制度とは出版社が書店に書籍の販売を委託する制度である(図1参照)。これにより書店は売れ残りの書籍を出版元である出版社に返品することが可能となり、書店は低リスクでの営業が可能となる。

#### 再販売価格維持制度



図 5.2 再販売価格維持制度の仕組み

再販売価格維持制度とは、書店が書籍を必ず定価で販売しなければならないという制度である(図2参照)。これにより出版物は書店の規模に関わらず同じ価格で提供されるので、中小規模の書店でも大型書店と同じ条件での経営が可能となる。

これら2つの制度は書店業界の中でも、特に中小規模の書店を守る機能を持った制度である。しかし、この制度があるにもかかわらず書店が相次いで閉店している現状から、この制度が完全に機能しきれていない可能性があるのではないかと考えた。



## 社会構造の変化

書店を取り巻く社会構造は以下のように大きく変化した。

- ・人口減少、少子高齢化

昨今の日本では人口が減少し、少子高齢化が進んでいる。これにより出版物を購入する人自体が減少し、需要が低下している。

- ・書店の大型化

書店の数はここ 10 年間で減少し続けている(図 5.3 参照)。しかし総坪数は近年減少していないことから、中小規模の書店が減少し大規模の書店が増加していることがわかる。

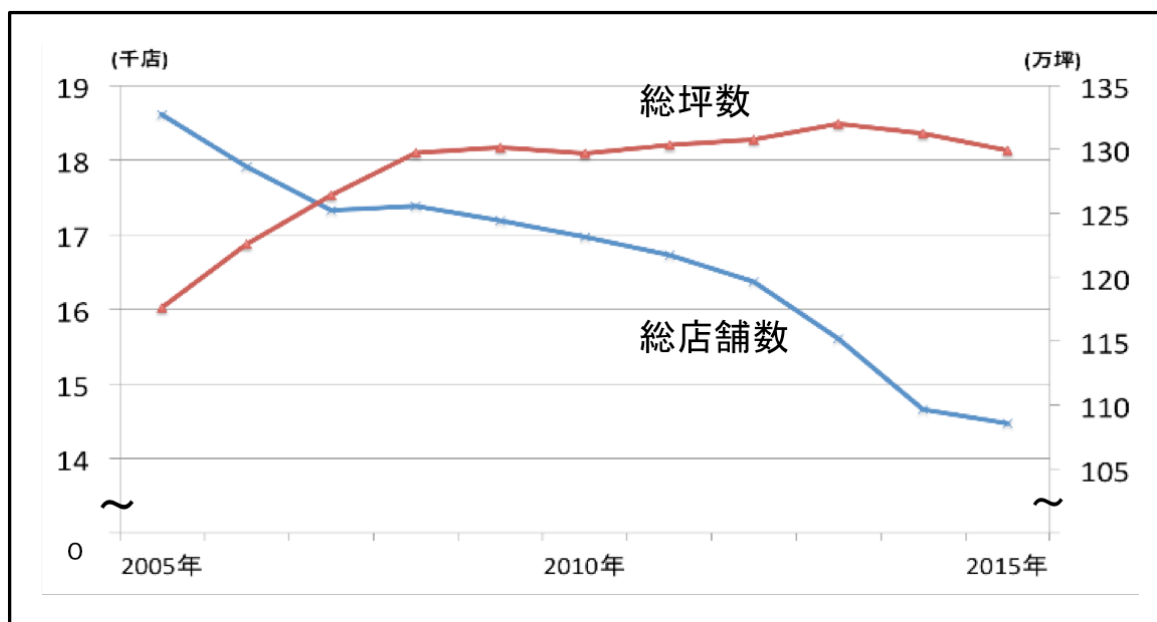


図 5.3 書店の総店舗数と総坪数の推移  
(書店マスタ管理センターより作成)

## 5.2 アンケート結果

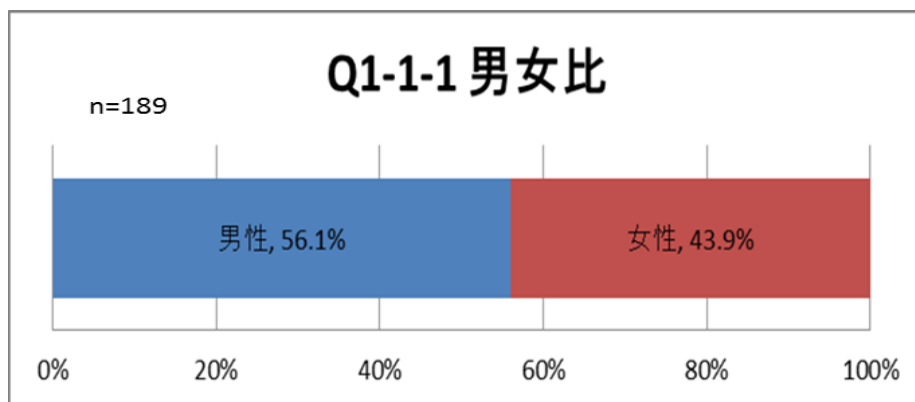


図 5.4 男女比

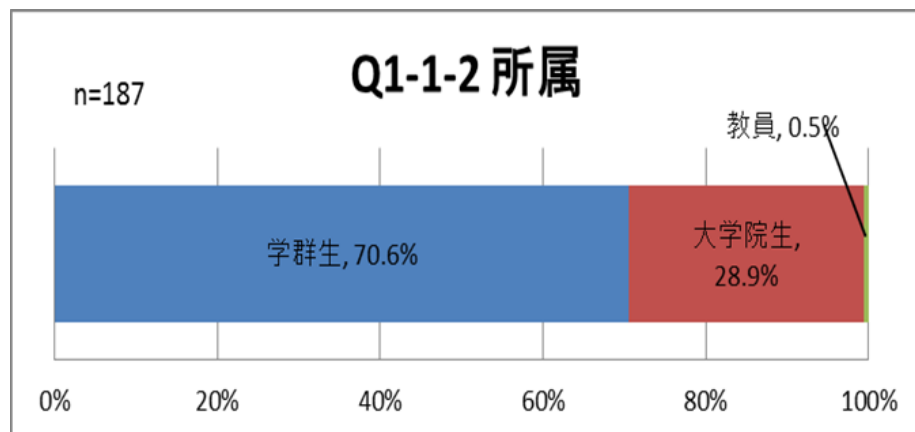


図 5.5 所属

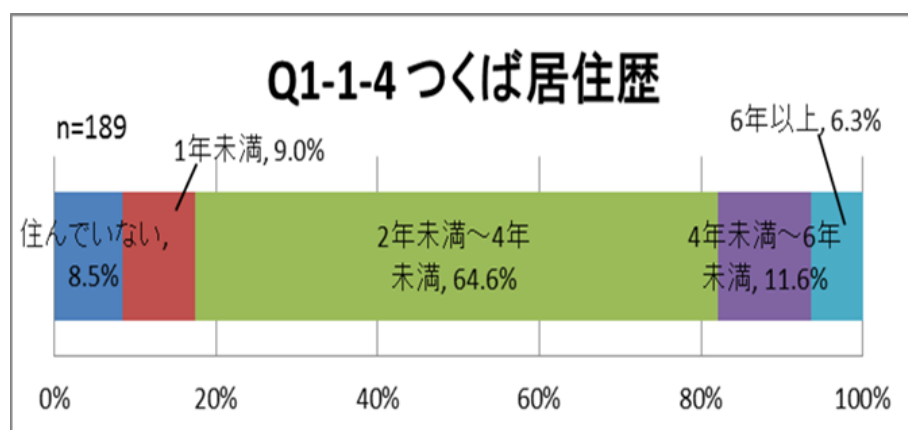


図 5.6 つくば市での居住歴

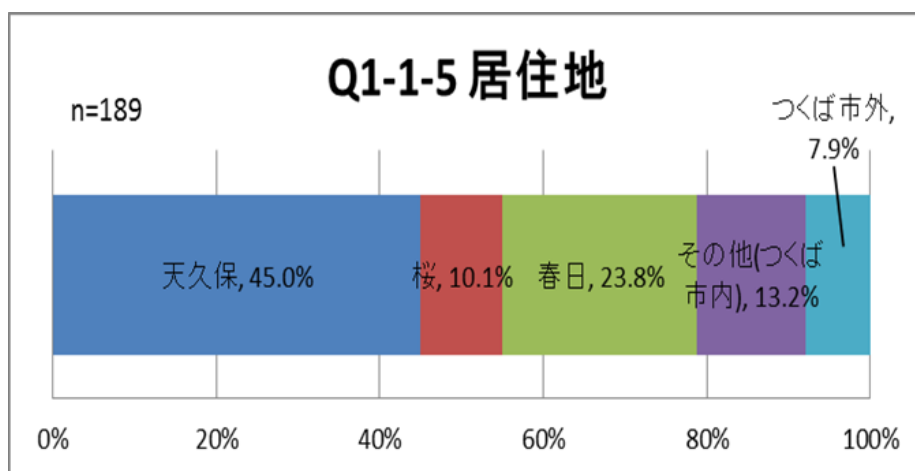


図 5.7 居住地

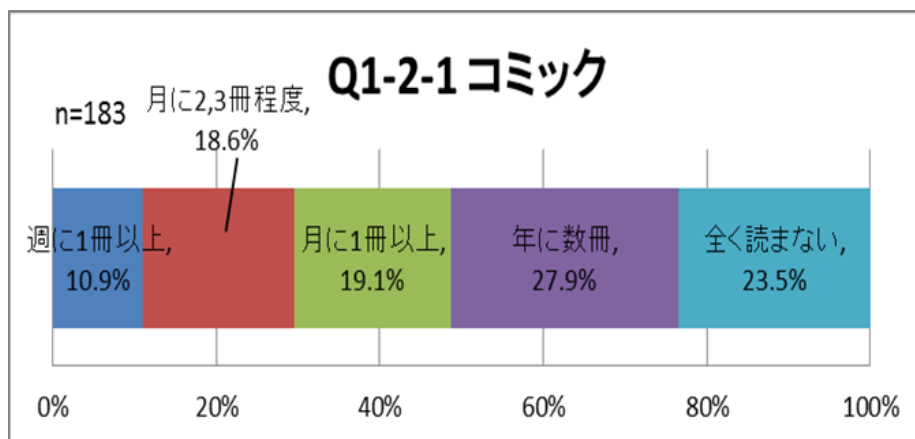


図 5.8 コミックを読む頻度

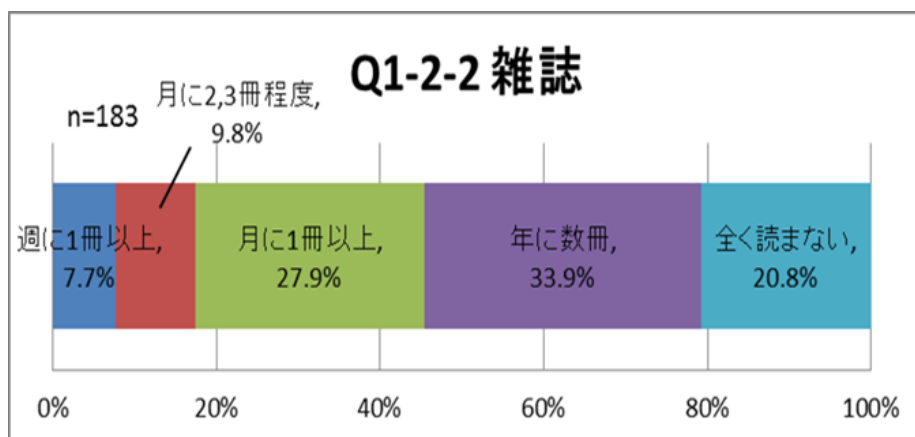


図 5.9 雑誌を読む頻度

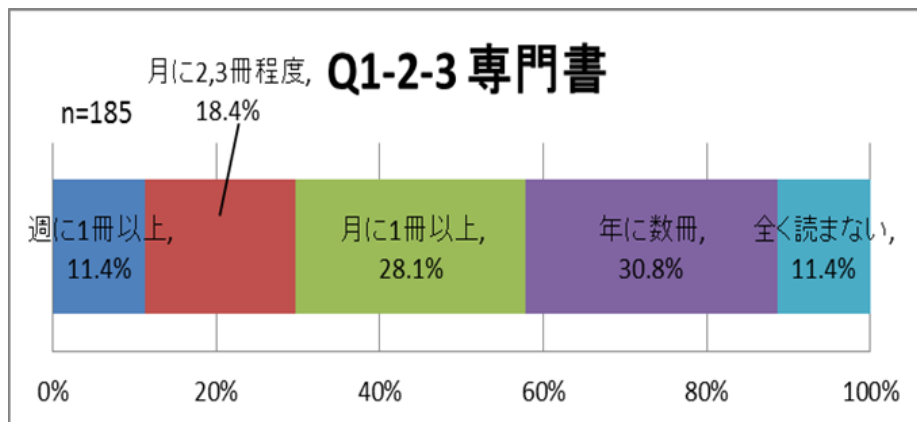


図 5.10 専門書を読む頻度

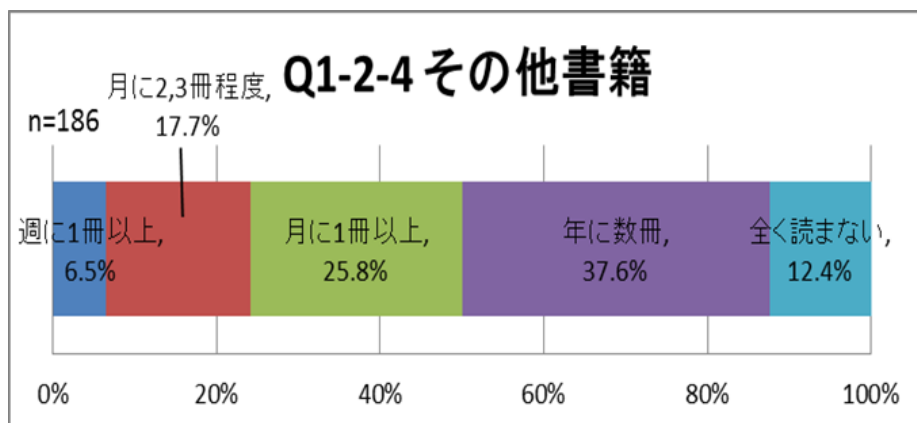


図 5.11 その他の書籍を読む頻度

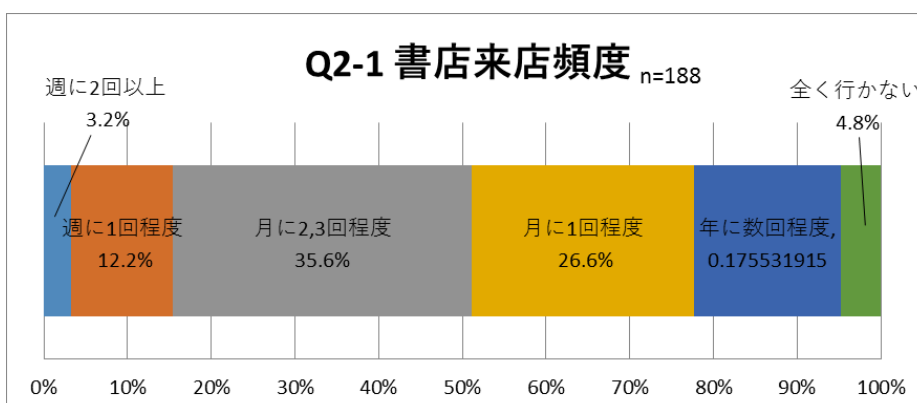


図 5.12 書店来店頻度

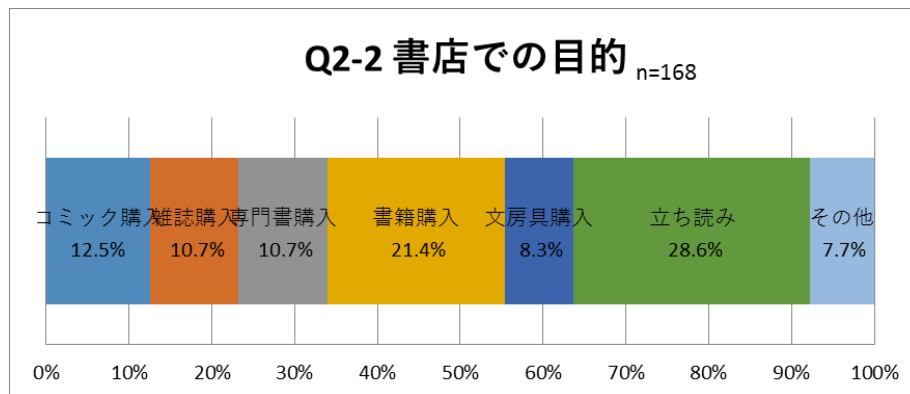


図 5.13 書店での目的

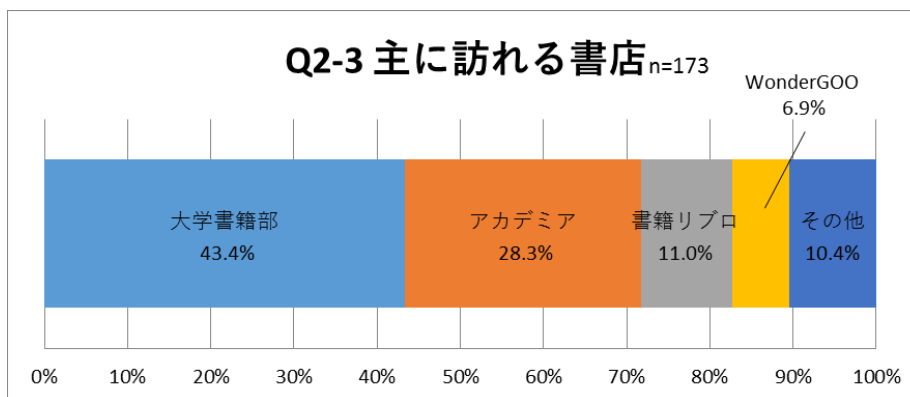


図 5.14 主に訪れる書店

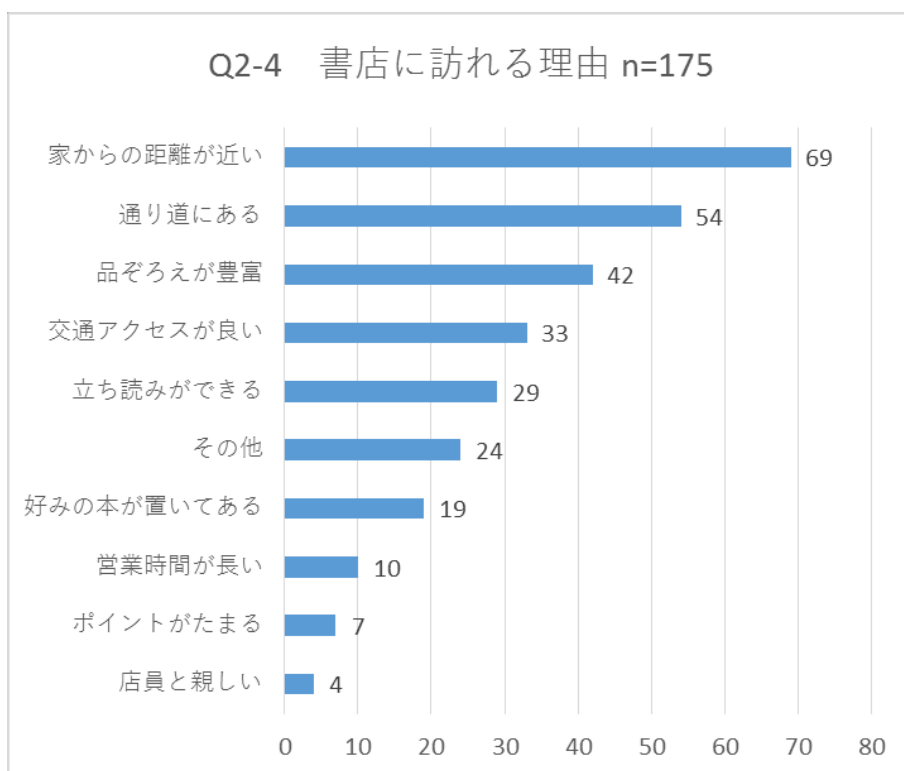


図 5.15 書店に訪れる理由(複数選択可)

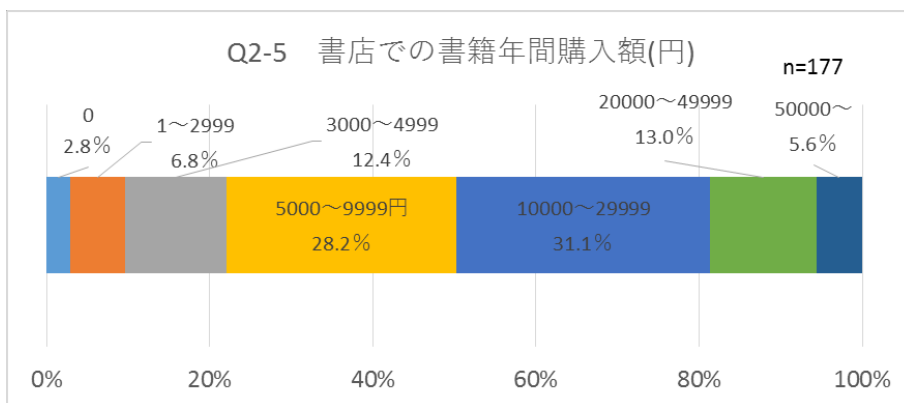


図 5.16 書店での書籍年間購入金額(円)

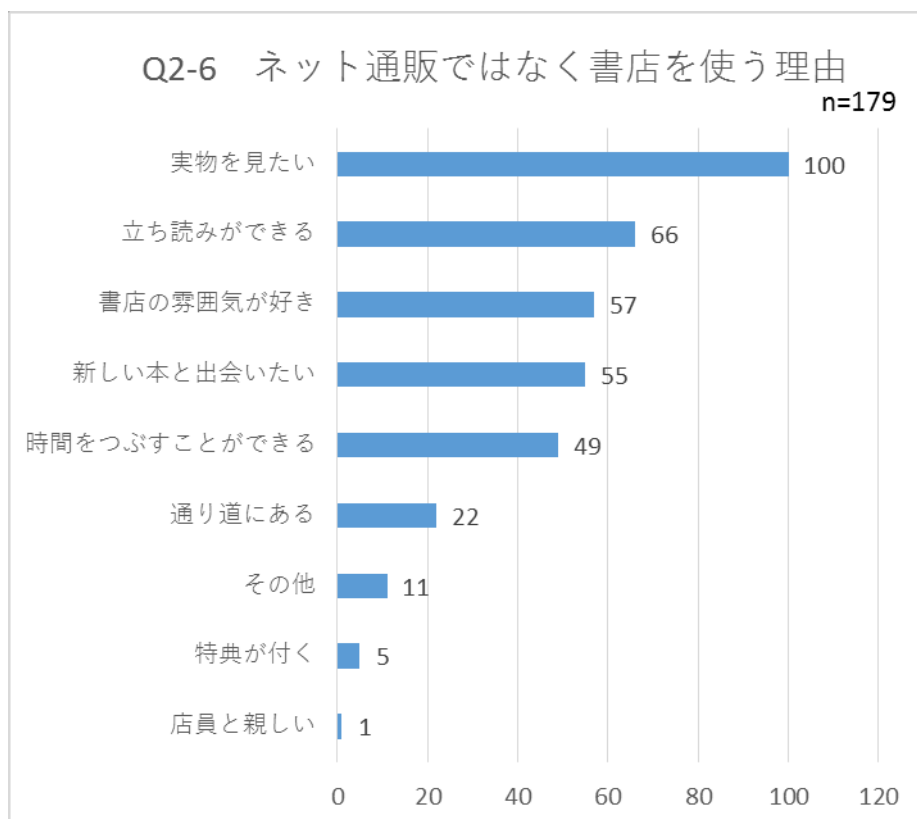


図 5.17 ネット通販ではなく書店を使う理由(複数選択可)

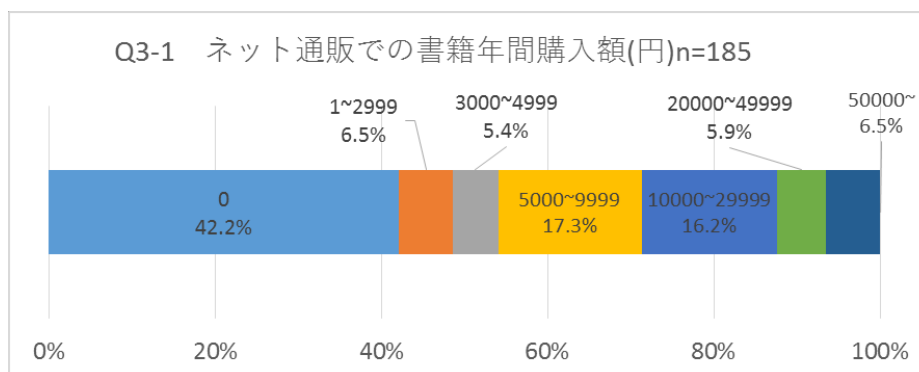


図 5.18 ネット通販での書籍年間購入金額(円)

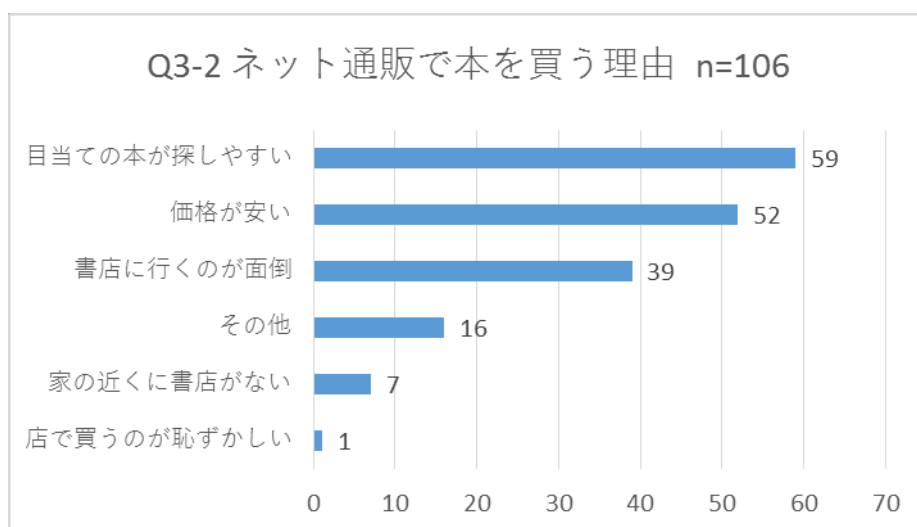


図 5.19 ネット通販で本を買う理由(複数選択可)

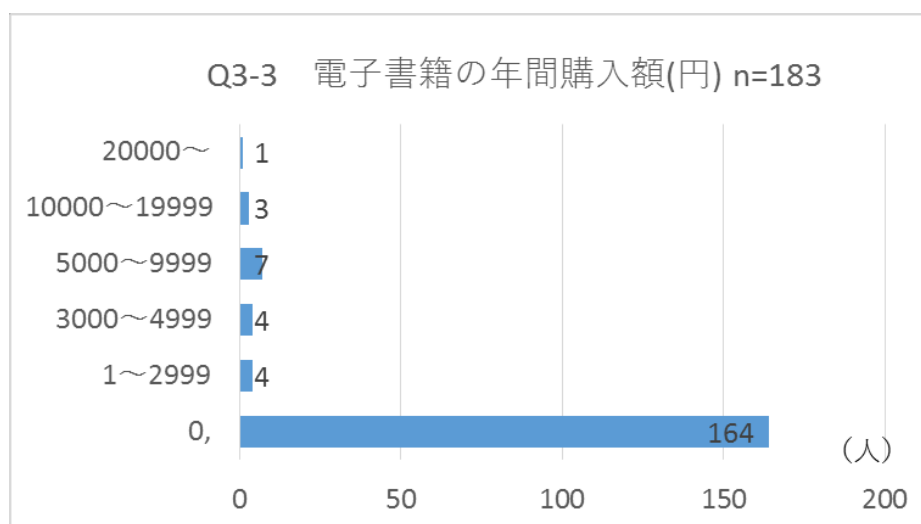


図 5.20 電子書籍の年間購入額(円)



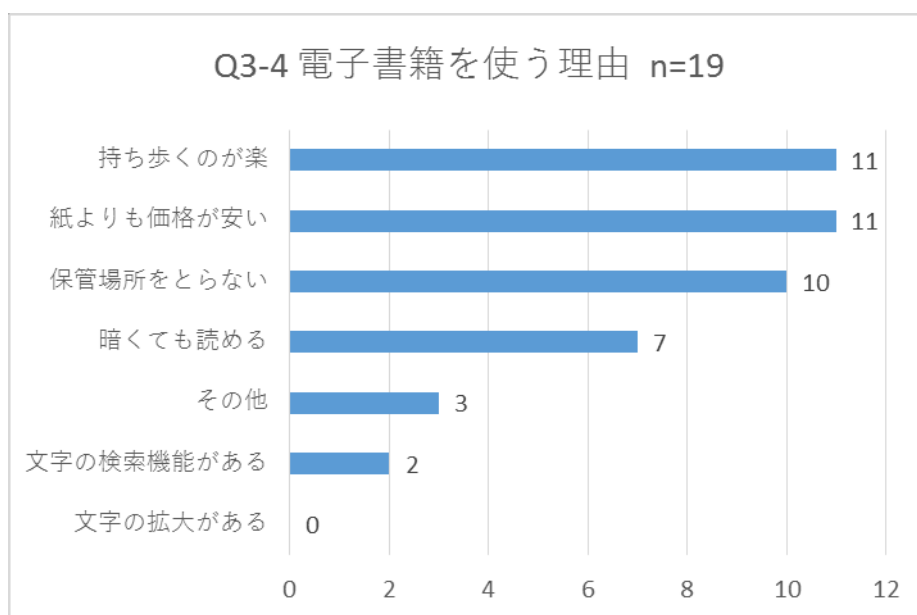


図 5.21 電子書籍を使う理由(複数選択可)

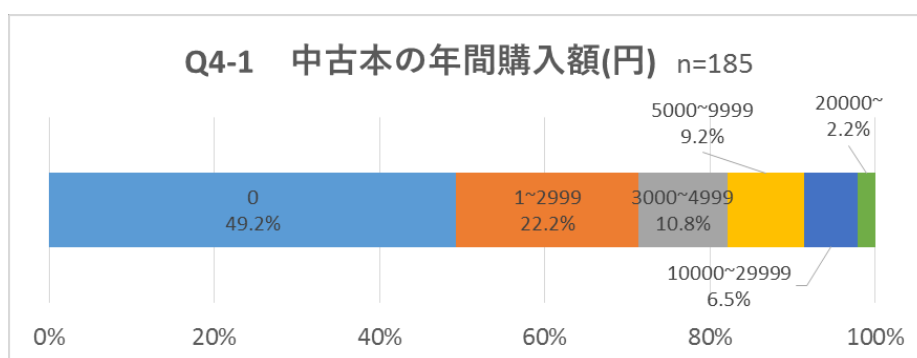


図 5.22 中古本の年間購入額(円)

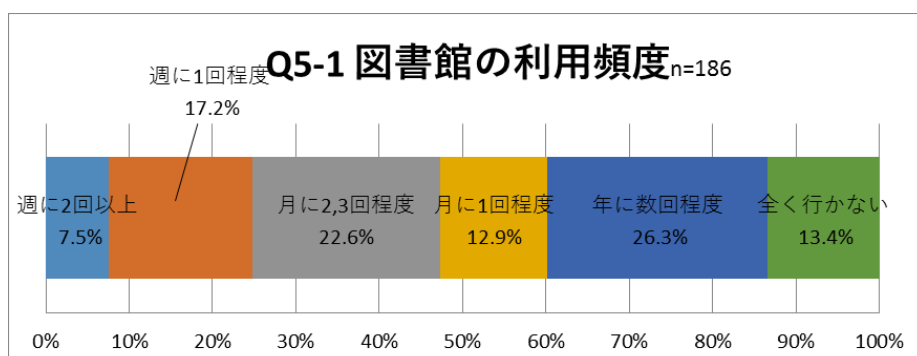


図 5.23 図書館の利用頻度

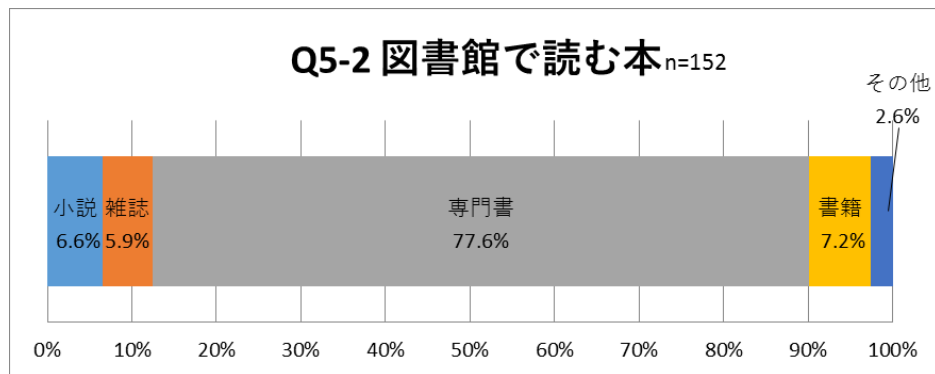


図 5.24 図書館で読む本

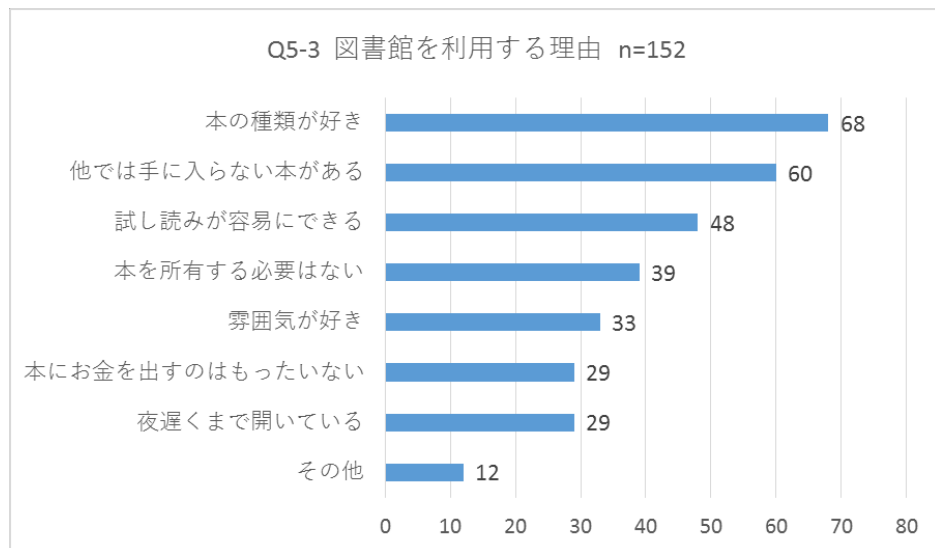


図 5.25 図書館を利用する理由(複数選択可)

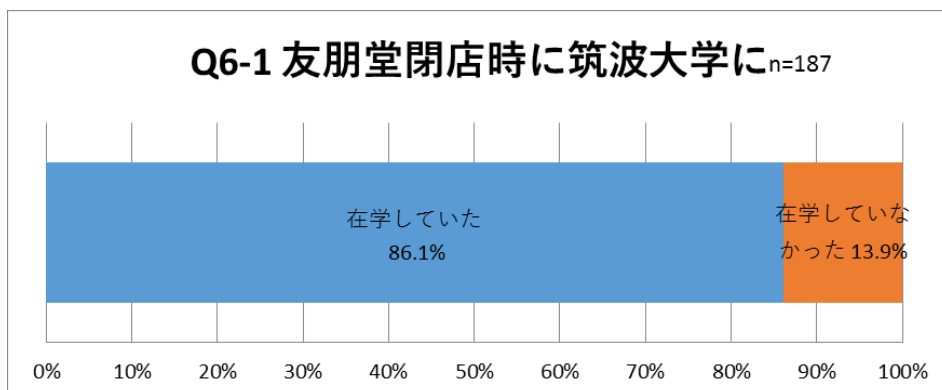


図 5.26 友朋堂閉店時に筑波大額に在籍していたか

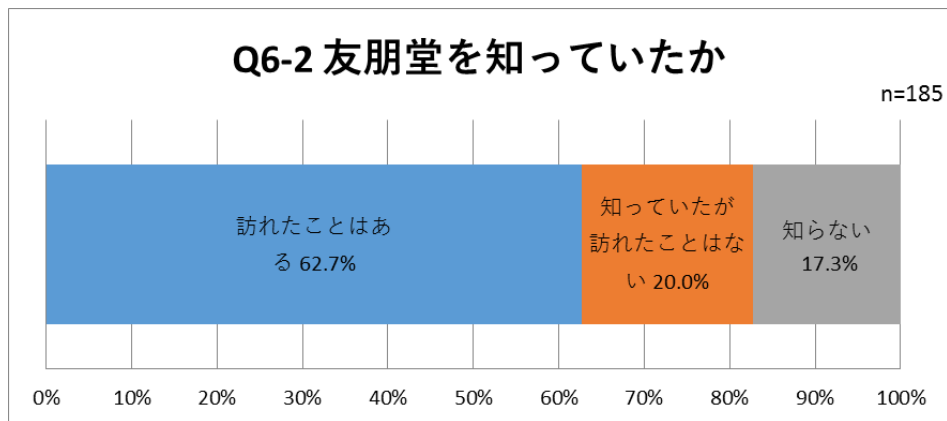


図 5. 27 友朋堂を知っていたか

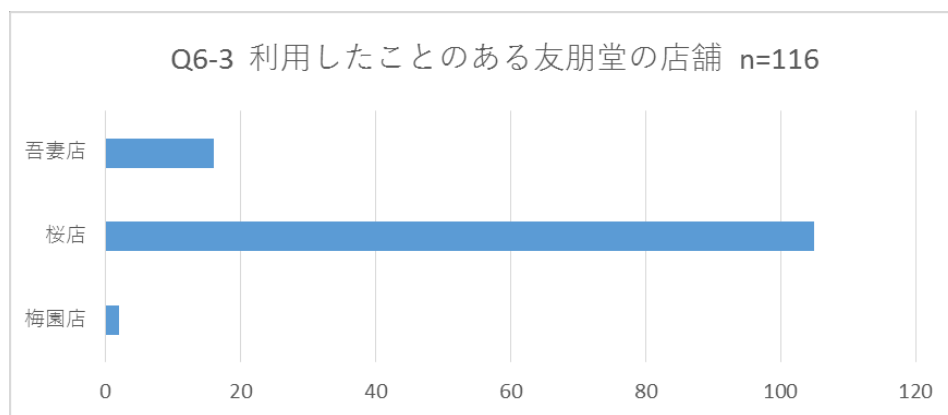


図 5. 28 利用したことのある友朋堂の店舗(複数選択可)

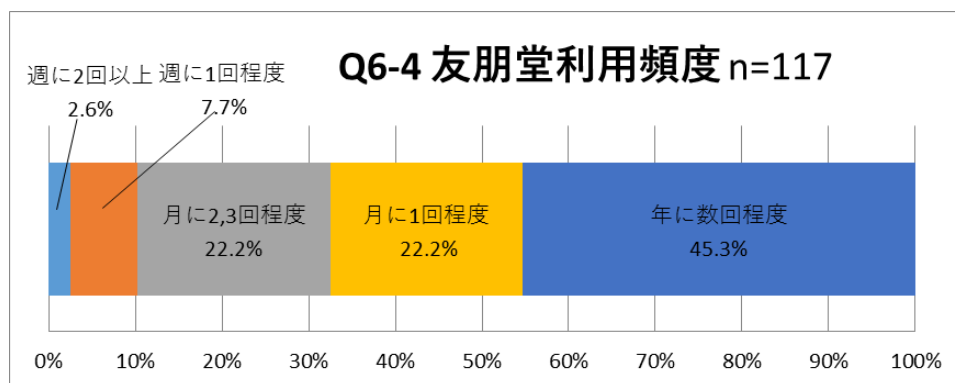


図 5. 29 友朋堂利用頻度

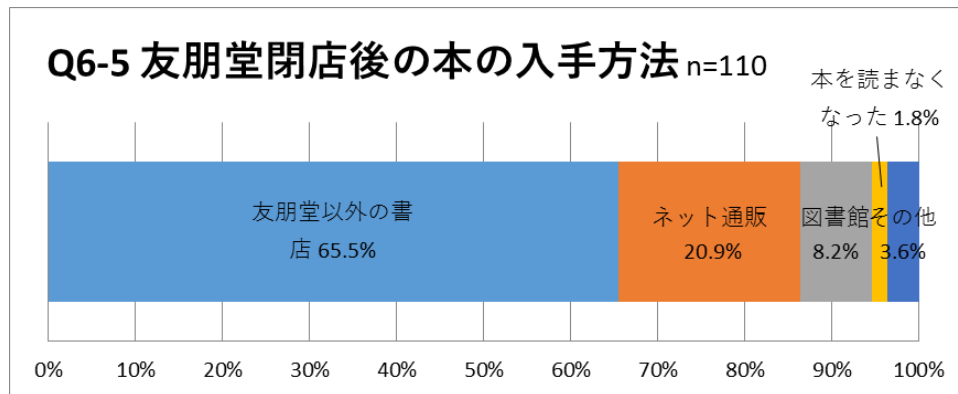


図 5.30 友朋堂閉店後の本の入手方法

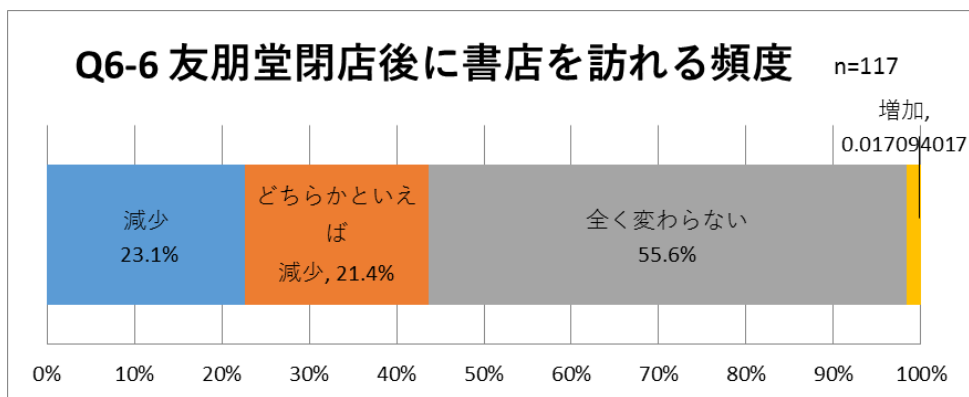


図 5.31 友朋堂閉店後に書店を訪れる頻度

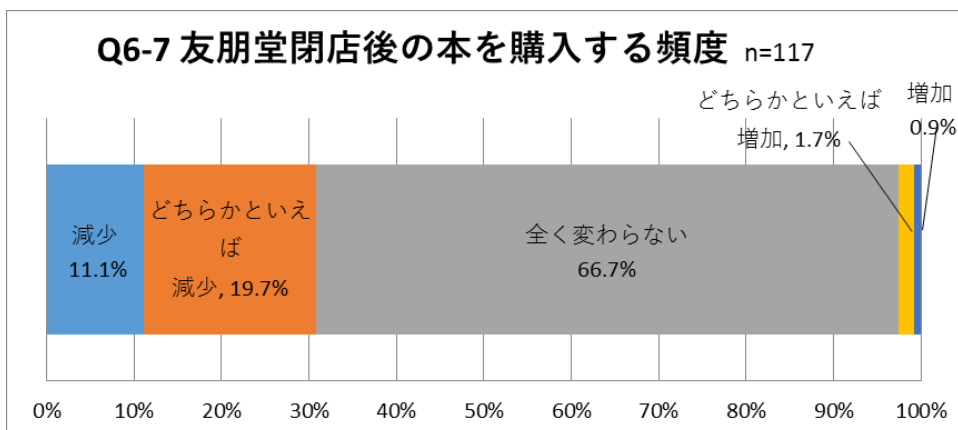


図 5.32 友朋堂閉店後の本を購入する頻度

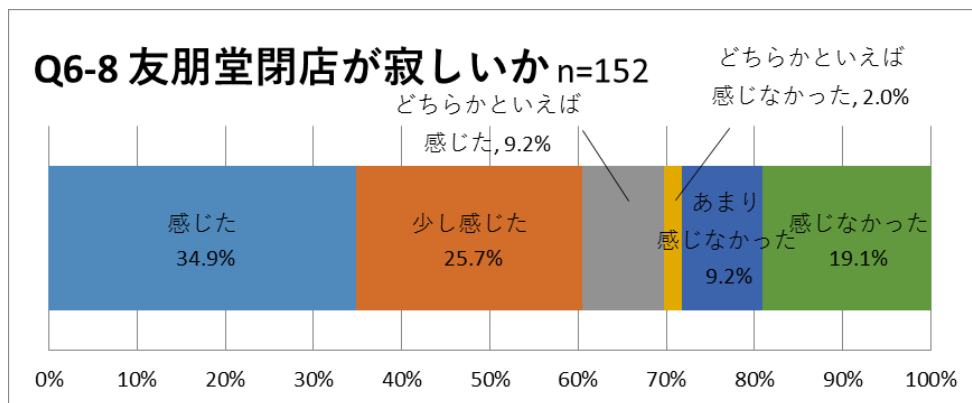


図 5.33 友朋堂閉店が寂しいか

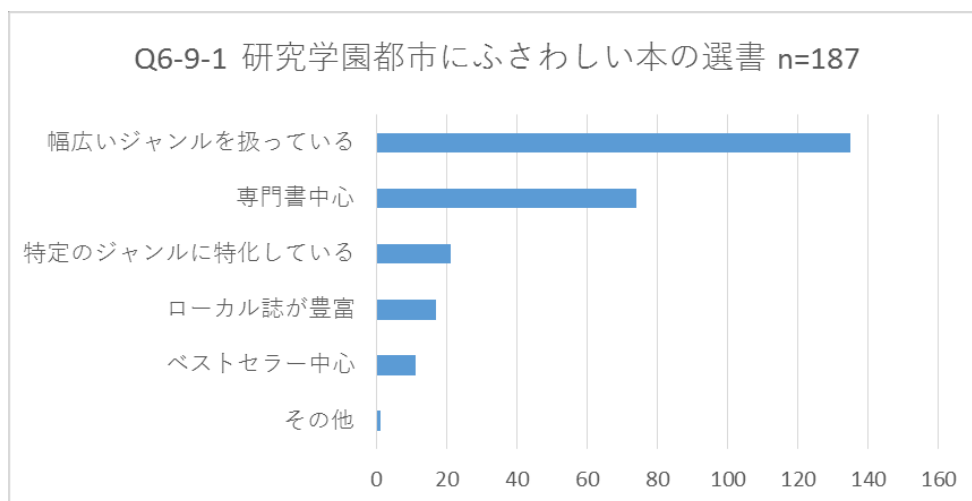


図 5.34 研究学園都市にふさわしい本の選書(複数選択可)

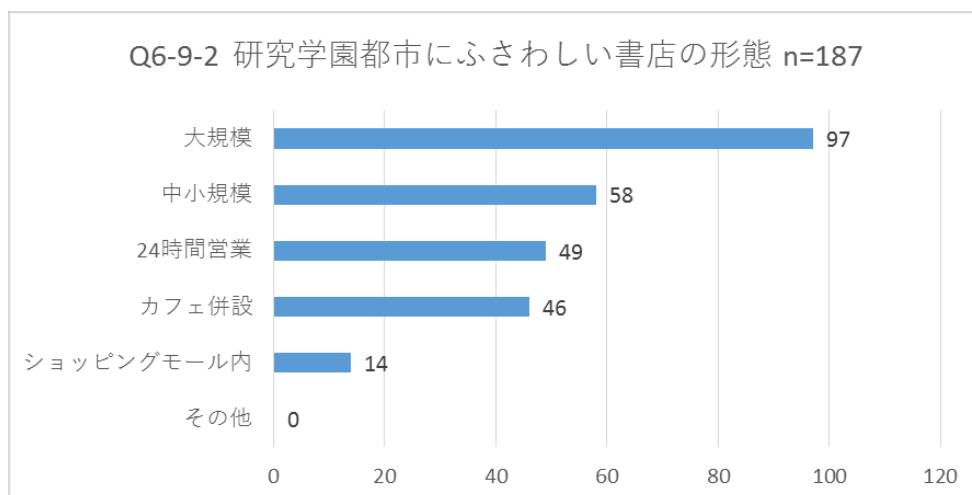


図 5.35 研究学園都市にふさわしい書店の形態(複数選択可)

# 書店の利用に関するアンケート

## はじめに

このアンケートにより個人が特定されること、回答内容によってみなさんが不利益をこうむることは一切ありません。このアンケートに関して意見、質問等のある方は以下のメールアドレスへご連絡をお願いします。

1 あなたご自身のことについてお尋ねします.

項目	回答欄
1) 性別	1. 男            2. 女
2) 所属	1. 学群生（                  ）学類      2. 院生 （                  ）専攻 3. その他 （                  ）
3) 学年	1. 1年      2. 2年      3. 3年      4. 4年      5. M1      6. M2 7. D1      8. D2      9. D3      10. 研究生      11. その他 （                  ）
4) つくば市に住んでいる期間	1. （                  ）年      2. 住んでいない
5) 居住地	1. 天久保（      ）丁目      2. 桜（      ）丁目      3. 春日 （      ）丁目 4. 栗原      5. 柴崎      6. その他（つくば市内） （                  ） 7. つくば市外（                  ）市町村区

1-2. 次の出版物（電子書籍含む）をそれぞれの程度の頻度で読んでいますか？あてはまる番号 1 つに○を付けてください。

項目	回答欄				
	週に 1 冊以上	月に 2,3 冊程度	月に 1 冊程度	年に数冊	全く読まない
1) コミックス（漫画の単行本）	1	2	3	4	5
2) 雑誌	1	2	3	4	5
3) 専門書	1	2	3	4	5
4) 書籍（コミックス・雑誌・専門書を除く）	1	2	3	4	5

**2** あなたの書店の利用についてお尋ねします。

2-1. 書店を訪れる(立ち読み含む)頻度はどれくらいですか？あてはまる番号 1 つに○を付けてください。

1. 週に 2 回以上	2. 週に 1 回程度	3. 月に 2,3 回程度	4. 月に 1 回程度
5. 年に数回程度	6. 全く行かない		

6 とお答えした方は **3** の質問にお進みください。

2-2. 主にどんな目的で書店を訪れますか？あてはまる番号 1 つに○を付けてください。

1. コミックスを買うため	2. 雑誌を買うため	3. 専門書を買うため
4. 書籍を買うため		
5. 文房具を買うため	6. 立ち読みをするため	7. その他
( )		

2-3. 主に訪れる書店は次のうちどれですか？あてはまる番号 1 つに○を付けてください。

1. 筑波大学内の書籍部	2. アカデミア（イーアスつくば内）	3. 書籍リブロ（西武筑波店内）
4. 未来屋書店（イオンモールつくば内）		
5. Wonder GOO（つくば市内）		
6. その他（場所と店名を具体的に）		

に： )

2-4. 2-3 で答えた書店に訪れる理由はなんですか？あてはまる番号すべてに○を付けてください.

1. 家からの距離が近い    2. 通り道にある    3. 交通アクセスが良い    4. 品揃えが豊富  
5. 好みの本が置いてある    6. ポイントがたまる    7. 営業時間が長い  
8. 立ち読みができる    9. 店員と親しい    10. その他  
( )

2-5. 書店での本（ネット通販を含まない）の購入に年間でいくら使っていますか？

( ) 円

2-6. （ネット通販などではなく）書店を利用する理由は次のうちどれですか？あてはまる番号すべてに○を付けてください.

1. 実物を見たい    2. 新しい本と出会いたい    3. 書店の雰囲気が好き    4. 特典が付く  
5. 通り道にある    6. 店員と親しい    7. 立ち読みができる    8. 時間をつぶすことができる  
9. その他  
( )

**3** あなたのネット通販での本（紙媒体）の購入 と 電子書籍の購入についてお尋ねします.

3-1. ネット通販での本の購入に年間でいくら使っていますか？

( ) 円

0 円と答えた方は 3-3 の質問にお進みください.

3-2. ネット通販で本（紙媒体）を購入する理由は次のうちどれですか？あてはまる番号すべてに○を付けてください.

1. 書店に行くのが面倒    2. 目当ての本が探しやすい    3. 価格が安い  
4. 家の近くに書店がない    5. 店で買うのが恥ずかしい    6. その他  
( )

3-3 電子書籍の購入に年間でいくら使っていますか？



( ) 円

0 円と答えた方は[4]の質問にお進みください。

3-4 電子書籍を利用する理由は次のうちどれですか？あてはまる番号すべてに○を付けてください。

- |               |              |              |
|---------------|--------------|--------------|
| 1. 持ち歩くのが楽    | 2. 保管場所をとらない | 3. 紙よりも価格が安い |
| 4. 暗くても読める    |              |              |
| 5. 文章の検索機能がある | 6. 文字の拡大ができる | 7. その他       |
| ( )           |              |              |

[4] あなたの中古本の購入についてお尋ねします。

4-1. 中古本の購入に年間でいくら使っていますか？

( ) 円

[5] あなたの図書館の利用についてお尋ねします。

5-1. どれくらいの頻度で本を読むために図書館を利用していますか？あてはまる番号 1 つに○を付けてください。（図書館の本を利用せずに勉強や話し合いなどをする場合は除く）

- |             |             |               |             |
|-------------|-------------|---------------|-------------|
| 1. 週に 2 回以上 | 2. 週に 1 回程度 | 3. 月に 2,3 回程度 | 4. 月に 1 回程度 |
| 5. 年に数回程度   | 6. 全く行かない   |               |             |

6 とお答えした方は[6]の質問にお進みください。

5-2. 図書館で主にどんな本を読みますか？あてはまる番号 1 つに○を付けてください。

- |       |       |        |       |        |
|-------|-------|--------|-------|--------|
| 1. 小説 | 2. 雑誌 | 3. 専門書 | 4. 書籍 | 5. その他 |
| ( )   |       |        |       |        |

5-3. 図書館を利用する理由は次のうちどれですか？あてはまる番号すべてに○を付けてください。

- |                    |                     |
|--------------------|---------------------|
| 1. 本にお金を出すのはもったいない | 2. 本を所有する必要はない      |
| 3. 本の種類が豊富         |                     |
| 4. 試し読みが容易にできる     | 5. 他では手に入らない本が置いてある |
| 6. 雰囲気が好き          |                     |
| 7. 夜遅くまで開いている      | 8. その他              |
| ( )                |                     |

**6** つくば市内にあった友朋堂書店についてお尋ねします。

6-1. 友朋堂書店は 2016 年 2 月 11 日に吾妻店、12 日に桜店、梅園店が閉店しました。あなたはこの時点で既に筑波大学に在学していましたか？

1. はい      2. いいえ

6-2. 友朋堂書店を知っていましたか？また、訪れたことがありますか？

1. 訪れたことがある      2. 知っていたが訪れたことはない      3. 知らない

1.とお答えした方は 6-3 へ、2 とお答えした方は 6-8 へ、3 とお答えした方は 6-9 へお進みください。

6-3. よく訪れていた店舗はどれですか？あてはまる番号全てに○を付けてください。

1. 吾妻店      2. 桜店      3. 梅園店

6-4. 友朋堂書店（三店舗合わせて）に訪れていた頻度はどれくらいですか？あてはまる番号 1 つに○を付けてください。

1. 週に 2 回以上      2. 週に 1 回程度      3. 月に 2,3 回程度      4. 月に 1 回程度  
5. 年に数回程度

6-5. 友朋堂が閉店してからはどのようにして本を入手していますか？あてはまる番号 1 つに○を付けてください。

1. 友朋堂以外の書店（場所と店名を具体的に：      ）      2. ネット通販  
3. 電子書籍      4. 図書館      5. 本を読まなくなった      6. その他（      ）

6-6. 友朋堂閉店後、書店を訪れる頻度は変化しましたか？あてはまる番号 1 つに○を付けてください。

1. 減少した      2. どちらかといえば減少した      3. 全く変わらない  
4. どちらかといえば増加した      5. 増加した

6-7. 友朋堂閉店後、本を買う頻度は変化しましたか？あてはまる番号 1 つに○を付けてください。

1. 減少した      2. どちらかといえば減少した      3. 全く変わらない  
4. どちらかといえば増加した      5. 増加した



#### 5.4 新規書店の立地特性

書店名	住所	立地特性
インテックツクバ	茨城県/つくば市/高野台/二丁目/13番地	幹線道路沿い、IC 近く
ブックオフつくばテクノパーク桜店	茨城県/つくば市/桜/一丁目/12番地	ショッピングセンター内
くるま古本ノスタルヂ屋	茨城県/つくば市/花畑/一丁目/12番地	幹線道路沿い
ブックエースつくば学園店	茨城県/つくば市/東新井/36番地	センター地区
(株)ときわ	茨城県/つくば市/松代/一丁目/18番地	幹線道路沿い
未来屋書店つくば店	茨城県/つくば市/稲岡	ショッピングセンター内
くまざわ書店つくば店	茨城県/つくば市/小野崎/278番地	ショッピングセンター内
ヴィレッジヴァンガードイースつくば店	茨城県/つくば市/下平塚	ショッピングセンター内
ACADEMIAイースつくば店	茨城県/つくば市/下平塚	ショッピングセンター内
ワンダーグー石下店	茨城県/常総市/新石下/1641番地	幹線道路沿い
神田書店常総店	茨城県/常総市/水海道淵頭町/2904番地	幹線道路沿い、駅前
夢屋書店アピタ石下店	茨城県/常総市/本石下/4421番地	駅前、ショッピングセンター内、幹線道路近く
ヴィレッジヴァンガードイオン下妻店	茨城県/下妻市/堀籠/972番地	ショッピングセンター内
Wonder GOOTSUTAYA岩瀬店	茨城県/桜川市/明日香/一丁目/7番地	幹線道路沿い、駅前IC 近く
絵本堂マイ・マイ	茨城県/桜川市/富谷/1566番地	住宅街、近くに幼稚園
三洋堂書店石岡店	茨城県/石岡市/東光台/三丁目/1番	幹線道路沿い
(有) 常陸	茨城県/石岡市/府中/三丁目/9番	幹線道路沿い、駅前

ツタヤピアシティ石岡店	茨城県/石岡市/石岡	ショッピングセンター内、駅近
ヴィレッジヴァンガードペルチ土浦	茨城県/土浦市/有明町/1番	駅ナカ
未来屋書店ペルチ土浦店	茨城県/土浦市/有明町/1番	駅ナカ
ほるぷC&S	茨城県/土浦市/文京町/10番	駅前、高校近く
ブックオフ土浦真鍋店	茨城県/土浦市/真鍋/二丁目/2番	幹線道路沿い
オークスブックセンター土浦ピアタウン店	茨城県/土浦市/真鍋新町/18番	ショッピングセンター内、駅近く
つちうら古書倶楽部	茨城県/土浦市/大和町/2番	駅前
(資)白石書店さん・あびお店	茨城県/土浦市/大畑/1611番地	ショッピングセンター内
未来屋書店イオン土浦店	茨城県/土浦市/上高津	ショッピングセンター内
ファミリーブック木田余店	茨城県/土浦市/木田余	ショッピングセンター内
富士書店土浦南店	茨城県/土浦市/永国/784番地	幹線道路沿い
ブックスオオトリひたち野うしく店	茨城県/牛久市/ひたち野東/一丁目/23番	駅ビル
ブックオフ竜ヶ崎緑町店	茨城県/龍ヶ崎市/緑町/58番地	幹線道路沿い
丸善ブックセンター流通経済大学店	茨城県/龍ヶ崎市/平台	大学内

## 5.5 消滅書店の立地特性

書店名	住所	立地特性
(有) 今城屋古書店	茨城県/つくば市/天久保/一丁目/1番地	大学近く
まんが屋	茨城県/つくば市/天久保/一丁目/7番地	大学近く
ブックバーン筑波学園店	茨城県/つくば市/天久保/二丁目/6番地	大学近く
よみがえるつくば天久保店	茨城県/つくば市/天久保/三丁目/10番地	大学近く
筑波学園文庫	茨城県/つくば市/天久保/三丁目/21番地	大学近く
古書つくば堂	茨城県/つくば市/竹園/一丁目/9番地	センター、ショッピングセンター内
さくら書房	茨城県/つくば市/竹園/二丁目/10番地	センター、幹線道路沿い
(株) ブックランドカスミ 学園店	茨城県/つくば市/東新井/18番地	センター
(有) タカゲン	茨城県/つくば市/東新井/18番地	センター
ブックマーケットつくば松代店	茨城県/つくば市/松代/一丁目/13番地	幹線道路沿い、住宅街
(株) 友朋堂書店 つくばアッセ店	茨城県/つくば市/上横場/2143番地	ショッピングセンター内
ブックスつくば	茨城県/つくば市/高見原/二丁目/1番	住宅街
激安書店	茨城県/つくば市/中内/56番地	幹線道路沿い
(有) 文洋堂	茨城県/つくば市/北条/38番地	住宅街
博文堂	茨城県/つくば市/宝陽台/34番	住宅街
イチロウ書店	茨城県/筑波郡/谷和原村	
ドリーム書房	茨城県/つくばみらい市/小絹/171番地	駅前、幹線道路沿い

文教堂書店谷和原店	茨城県/つくばみらい市/小絹 / 7 8 2 番地	駅前、幹線道路沿い
ブックセンターよむ よむ水海道店	茨城県/常総市/水海道諏訪町 / 3 2 2 2 番地	駅近く、幹線道路沿い
北村書店	茨城県/常総市/水海道宝町/ 2 7 5 2 番地	駅前
しんしんどう書店	茨城県/常総市/水海道宝町/ 2 7 5 6 番地	駅前
ブックオフ水海道店	茨城県/水海道市/淵頭町	
(株)ブックランドカ スミ 石下店	茨城県/常総市/新石下/ 1 6 4 1 番地	のちのワングー、幹線 道路沿い
ブックシアターベル 石下アピタ店	茨城県/常総市/本石下/ 4 4 2 1 番地	駅前
ブックス. オアシス	茨城県/下妻市/小島/ 8 8 4 番地	駅近く、幹線道路沿い
今昔堂書房	茨城県/下妻市/下妻丁/ 8 7 番地	駅近く、幹線道路沿い
ブック・アート	茨城県/下妻市/長塚/ 3 8 番 地	駅近く、幹線道路沿い
東京書店	茨城県/下妻市/長塚/ 4 1 番 地	駅近く、幹線道路沿い
マルシン書店	茨城県/筑西市/岡芹/ 2 0 6 4 番地	駅前、幹線道路沿い
ブックトマト下館店	茨城県/下館市	
古厩書店	茨城県/筑西市/外塚/ 8 1 3 番地	駅近く
文教堂書店下館店	茨城県/筑西市/布川/ 1 3 1 6 番地	駅近く、幹線道路沿い
小川書店	茨城県/下館市	
東京堂	茨城県/真壁郡/関城町/大字 関本中	
合格堂書店	茨城県/筑西市/倉持/ 1 1 2 3 番地	住宅街、学校近い
マルエム高商	茨城県/筑西市/向川澄/ 5 7 番地	幹線道路沿い

源誠堂トゥデイ	茨城県/西茨城郡/岩瀬町	
ファミリーブック買取王石岡店	茨城県/石岡市/旭台/一丁目/ 1 2 番	駅近く、幹線道路沿い
(有) エトワス	茨城県/石岡市/旭台/三丁目/ 1 4 番	住宅街
渋谷古書店	茨城県/石岡市/国府/二丁目/ 1 番	駅前
近清書店	茨城県/石岡市/国府/三丁目/ 2 番	駅近く、幹線道路沿い
おがわやブックセンター	茨城県/石岡市/杉並/一丁目/ 3 番	住宅街
金次郎書店	茨城県/石岡市/東光台/一丁目	駅近く、幹線道路沿い
つくば書店	茨城県/石岡市/行里川	
よみがえる石岡中央店	茨城県/石岡市/八軒台	
松倉書店	茨城県/石岡市/府中/二丁目/ 1 番	駅前
(有) なべや書店	茨城県/石岡市/柿岡/1 9 3 3 番地	住宅街
ファミリーブック八郷店	茨城県/石岡市/柿岡/2 7 4 3 番地	住宅街
ブックアイランド荒川沖駅前店	茨城県/土浦市/荒川沖東/二丁目/1 番	駅前
ツルヤブックセンター	茨城県/土浦市/荒川沖東/二丁目/7 番	駅前
(資) 白石書店 駅ビル店	茨城県/土浦市/有明町/1 番	駅ナカ
ブックマーケット土浦生田店	茨城県/土浦市/生田町/9 番	駅近く、幹線道路沿い
Kブック土浦店	茨城県/土浦市/川口/二丁目/ 4 番	駅前
(有) 神立ブックセンター	茨城県/土浦市/神立中央/一丁目/1 1 番	駅前
ブックスやまうち	茨城県/土浦市/神立中央/三	住宅街



	丁目/13番	
古本ドリーム	茨城県/土浦市/桜町/三丁目/ 7番	駅前
ドリーム	茨城県/土浦市/桜町/三丁目/ 7番	駅前
(株) オオサワ	茨城県/土浦市/中央/一丁目/ 11番	駅前
(資) 白石書店 本店	茨城県/土浦市/中央/一丁目/ 12番	駅前
古書あやめ書房	茨城県/土浦市/中央/一丁目/ 13番	駅前
ときわ書店・土浦店	茨城県/土浦市/中/928番 地	幹線道路沿い
(株) ブックランドカ スミ 高津店	茨城県/土浦市/中高津/一丁 目/15番	住宅街
ブックオフ学園東大 通店	茨城県/土浦市/中村南/四丁 目/8番	幹線道路沿い
ブックバーン土浦真 鍋店	茨城県/土浦市/真鍋/五丁目/ 16番	幹線道路沿い、学校近 い
パピエ土浦店	茨城県/土浦市/真鍋/五丁目	幹線道路沿い、学校近 い
ピアタウンブックラ ンドカスミ	茨城県/土浦市/真鍋新町/1 8番	住宅街
(株) ブックランドカ スミ 土浦店	茨城県/土浦市/真鍋新町/1 8番	住宅街
ハマノ書房	茨城県/土浦市/右廻/240 0番地	住宅街、陸自駐屯地近 く
文教堂書店牛久店	茨城県/牛久市/上柏田/四丁 目/1番	幹線道路沿い
みどり書房	茨城県/牛久市/南/四丁目/4 5番	駅近く、住宅街
宮本書店	茨城県/牛久市/田宮	
新橋書店	茨城県/龍ヶ崎市/川原代町/ 5569番地	駅前
くら書房	茨城県/龍ヶ崎市/佐貫	

ブックバーン竜ヶ崎店	茨城県/龍ヶ崎市/出し山町/42番地	駅近く、住宅街
ブックマーケット竜ヶ崎店	茨城県/龍ヶ崎市/中根台/三丁目/7番地	幹線道路沿い
(有)栄文堂書店 リブラ店	茨城県/龍ヶ崎市/馴馬町/754番地	ショッピングセンター内、駅前
かわしま書店	茨城県/龍ヶ崎市/若柴町/3082番地	駅前